

「地域国別学」における日本学研究国際シンポジウム  
東アジア若手研究者フォーラム

時間 (北京時間)		会場	発表者と題目	司会 コメンテーター
11 月 25 日 ・ 大 学 院 生 フ ォ ー ラ ム	13:15- 13:30	zoom 会場 1 zoom ID: 836- 0455-2498 (PW331493)  対面会場 日研楼 402	開会式 (13時から入室可能)	司会：費曉東 (北京外国語大学)
	13:30- 13:50		河盛皓 (高麗大学) 題目：日本の児童向け大衆文化の写実主義的な 機械描写——巨大ロボットアニメと玩 具・プラモデル・イラストを中心に——	杉本章吾 (高麗大学)  高啓豪 (政治大学)  呉江城 (北京外国語大学)
	13:50- 14:10		黄嫣然 (北京外国語大学) 題目：蠟山政道の東亜協同体論における「地域 的運命」の意識について—— 「Raumsschicksal」という概念の思想史 的な溯源を中心に——	
	14:10- 14:30		隋澤宇 (高麗大学) 題目：戦時児童文学における鉄道旅——「あじ あ号」という文学空間の創出——	
	14:30- 14:50		ホメンコ・ナタリア (筑波大学) 題目：村上春樹「眠り」における妻の表象 ——専業主婦の無音の叫び——	
	14:50- 15:10		陳旻暄 (政治大学) 題目：現代日本における女性アイドルキャラ 構成についての一考察——「神7」と 呼ばれるメンバーを対象に——	
	15:10- 15:30		鄭燦 (高麗大学) 題目：日本の東アジア域内戦略的パートナーシ ップ研究	
	15:30- 15:50		孫利冉 (北京外国語大学) 題目：地方自治体の UIJ ターン施策のミスマ ッチについて	

	13:30-13:50	zoom 会場 2 zoom ID: 836-0455-2498 (PW331493)	CHEN YUSHI (筑波大学) 題目: 責任判断に関わる自動詞・他動詞 ——日本語と中国語の比較を中心に——	文昶允 (筑波大学)
	13:50-14:10		朴胤宣 (高麗大学) 題目: 語種の異なる類義語の意味的特徴について——「健康な・健やかな・ヘルシーな」の用例分析を中心に——	
	14:10-14:30		金世利 (高麗大学) 題目: ラシイ文における推論過程	
	14:30-14:50		林敬憲 (政治大学) 題目: 「いい」の名詞修飾用法と述語用法に関する一考察	
	14:50-15:10		JIN JIN (筑波大学) 題目: 日本語学習者の視点表現に関する定量的評価の試み——ストーリーライティングタスクを対象として——	
	15:10-15:30		宋啓超・王一凡・車鑫・王夢晗 (北京外国語大学) 題目: 日本語複合動詞の処理に及ぼす呈示モダリティとL2語彙力の影響	
11月26日・教員講演	09:00-09:40	zoom 会場 zoom ID: 865-1922-7416 (PW739389)	徐承元 (高麗大学教授) 題目: 韓日関係を問う: 金大中・小渕宣言、25年の歩みを評価する	司会 費曉東 (北京外国語大学)
	09:40-10:20		齋藤一 (筑波大学准教授) 題目: 広島原爆の語り方——峠三吉と福原麟太郎	
	10:20-11:00		金想容 (政治大学) 題目: 帝国の珍味から昭和ノスタルジア装置へ——日本における「台湾バナナ」の消費文化史——	
	11:00-11:40		費曉東 (北京外国語大学) 題目: 日本語教育研究における作動記憶の応用可能性	
	11:40-11:50	閉会式		

# 大学院生フォーラム

## 第1会場

### zoom 会場 1

zoom ID: 836-0455-2498 (PW331493)

### 対面会場

日研楼 402

# 日本の児童向け大衆文化の写実主義的な機械描写

## ー巨大ロボットアニメと玩具・プラモデル・イラストを中心にー

高麗大学校大学院中言語文学科博士課程

河盛皓

### 1. はじめに

1978年に刊行された日本初のアニメ専門誌『アニメージュ』の創刊号の表紙は『宇宙戦艦ヤマト』であった。同出版社のムック『ロマンアルバム 宇宙戦艦ヤマト』(1977)の人気を受けて創刊された雑誌であり、その表紙を飾る作品の選定には納得がいくが、二つの表紙はその表現において大きな違いを見せる。『ロマンアルバム』のヤマトはアニメで実際に用いられるセル画を通じて表現されたが、『アニメージュ』においては、まるで写真を彷彿させる、精密なペン画技法で表現されているのである。アニメに登場する機械兵器が、原作アニメに登場する姿より写実的に描かれる現象は、月刊『テレビマガジン』を含む児童向けテレビ雑誌などの紙面においては、さらに頻繁に目撃される。1970年代以降、巨大ロボットアニメは児童向けテレビ雑誌の代表的なコンテンツとして、毎号紙面から抜けた例がないが、原作アニメで見られるようなセル画の様式で描かれたイラストは珍しい。これらのイラストは何故、アニメの根幹をなすセル画ではなく、より写実的な絵画様式で表現されたのであろうか。

本発表では、1970年代から1980年代にかけて人気を博した巨大ロボットアニメとそれをめぐるメディアミックス（主に玩具とプラモデル）の様相に関する先行研究を参照しながら、先述したような写実的な機械兵器（主に巨大ロボット）のイラストが登場した背景、そして巨大ロボットアニメのメディアミックスにおいてそれが果たした役割について考察していきたい。

### 2. 戦後日本のプラモデルと戦記物語ブーム

まずは本発表で取り扱う議論の前史として、1960年代から1970年代にかけて日本の子どもたちが熱狂していたプラモデルと戦記物語ブームについて少し触れておきたい。

プラモデルはプラスチックモデルの略語であり、以前までは木材を主な材料にしていた模型に代わる玩具として、戦後日本に急速に広まったものである。プラスチックを素材にして型成形した部品を接着剤などを用いて組み立てて完成する模型玩具のことをいう。プラモデルはモデルとなった実物、あるいは架空の機械・建物などを縮小して適当な数の部品に分割、その後、ボックスアートが描かれた箱に詰められた状態で販売される。完成後は、着色やシールを用いて外見的装飾を施し、実物により近づけるための作業を行う。戦後に日本社会には占領軍兵士によって持ち込まれ、1958年から日本製のプラモデルも発売され始めた。当時の製品は第2次世界大戦中に実在した各国の兵器をモデルとしたものが主流だった。同一スケールで縮小された兵器の模型がシリーズとして発売されるもいたが、これらを「コレクション」することで、第2次世界大戦を一つの物語世界として楽しむこともできた。

兵器がモデルの中心となるのは、玩具と戦争の関係の関係性、非日常性、歴史的な物語性がなどの理由が考えられる。兵器は戦後日本社会においては、普段目にするここのない非日常性を持っており、兵器のプラモデルからは戦争に付随する「人の死」が捨象されており、兵器としてのデータとメカニカルな面での「かっこよさ」が、子どもの憧れとして受容されていた。言わばプラモデルは戦争への関心、そして戦争の「知」への入り口であった。その戦争の「知」を編成する要素が兵器の解説や戦争に関する情報であり、「ボックスアート」と呼ばれる外箱に描かれた挿絵である。ボックスアートはその外箱に入っている商品の種類が分かるように描かれている独特のイラストであり、購買意欲を高めるだけではなく、そのプラモデルが戦争に参加している具体的なイメージ、後付けされた「かっこいい」活躍のイメージを疑似的に「再現」している。ボックスアートはプラモデル購買者にとって購入を決定する大きな要素であり、プラモデルを中心とした大きな物語を夢想する重要なカギであった。<sup>1</sup>

1960年代当時、少年文化の中心的役割を果たしていたの少年雑誌は、それまでの月刊誌に加えて、新に週刊誌が出現し、日本中の少年たちを虜にしていた。その少年雑誌が巻き起こした「戦記ブーム」は、当時の少年たちにかつての戦争に使用された兵器を事細かに解説していた。そこには連合艦隊、戦艦大和、ゼロ戦などの世界が展

<sup>1</sup> 坂田謙司「プラモデルと戦争の「知」－「死の不在」とかっこよさ」『「反戦」と「好戦」のポピュラー・カルチャー』人文書院、2011、205p

開され、多くの少年たちがそれに夢中になった。小松崎茂、高荷義之、伊藤展安、梶田達二、中西立太などの挿絵画家が描いた口絵、挿絵は、写真では見ることのできなかった歴史上の情景を雄弁に物語り、生き生きとした情報を伝播させたのだ。彼らがプラモデルのボックスアートを手掛けるようになって、少年雑誌冒頭の戦争絵巻は、そのままプラモデルへと引き継がれていった。1960年代から1970年代へと続く、プラモデル第一期黄金時代の到来である。<sup>2</sup>

### 3. 巨大ロボット玩具のヒットとその意義

1970年代、プラモデルに新たなジャンルが加わった。実在する兵器をモデルとしたスケールキットの視点で作られたキャラクターモデルである。今日、日本独自の文化と言えるほどにまで発展し、『機動戦士ガンダム』（1979）のプラモデル（ガンプラ）など、もはやそれ抜きにはプラモデル産業を語るができないほどにまで大きく成長することになった分野である。このキャラクターモデル分野は1970年代、『仮面ライダー』のような特撮ドラマのヒットとともに多大な人気を博していたが、オイルショックの影響などにより、キャラクターモデルの原典である特撮ドラマ自体の製作本数が減少することにしたがい、新しい市場を求め、やがてアニメーションへと応用展開されることになる。この時代にプラモデルが発売されたアニメ作品としては『マジンガーZ』（1972）をはじめ、『グレートマジンガー』（1974）、『ゲッターロボ』（1974）のような巨大ロボットアニメが存在する。しかし、この時期にはキャラクターモデルに参入するメーカーが少なくなり、巨大ロボットアニメのキャラクター商品はプラモデルから「超合金」などの玩具に移行していた。<sup>3</sup>

1970年代の子ども向けコンテンツにおけるヒット作は、『鉄腕アトム』（1952）のような雑誌主導型から『ウルトラマン』（1966）や『仮面ライダー』（1971）のようなテレビ主導型へ、さらに玩具メーカーが子ども向けテレビ番組のスポンサーとなる「玩具主導型」番組へと移行する。<sup>4</sup>『マジンガーZ』をはじめ巨大ロボットアニメがその代表的なジャンルである。人が直接巨大ロボットに乗り込んで操縦し、敵のロ

<sup>2</sup> 平野克己『小松崎茂と昭和の絵師たち—プラモ・ボックスアートの世界』学研プラス、2007、8p

<sup>3</sup> 日本プラモデル工業協同組合（編）『日本プラモデル50年史 1958—2008』文藝春秋、2008、214p—216p

<sup>4</sup> 野上暁『子ども文化の現代史』大月書店、2015、132p

ロボットに立ち向かうこのジャンルで、巨大ロボットとは少年の身体の延長としての意味を持つ。マジンガーZは劇中、「超合金Z」という特殊金属で作られているという設定があり、それにちなんで誕生したのが亜鉛合金を用いたロボット玩具の大ヒット作「超合金」シリーズである。累計100万個以上の売り上げを記録したこのシリーズは、以降約10年間、巨大ロボットアニメの主力商品として活躍する。「超合金」シリーズは金属の質感と重さを持つキャラクター商品として、少年たちの日常における「身体の延長としての巨大ロボット」を体感できる玩具であった。即ち、アニメに描かれた巨大な身体を少年たちの日常世界に引き込む役割を果たすことで「巨大ロボットを内部化するメディア」として機能したのである。<sup>5</sup>

1970年代後半には、キャラクター玩具の低年齢化が進み、遊びの画一化や非創造性に対する反発が生じた。それに呼応する形で、自分の好みでキャラクターを想像できる「機動戦士ガンダム」のプラモデル（ガンプラ）のブームが巻き起こったと言われる。先述した通り、巨大ロボットアニメのプラモデルは1970年代にも存在したが、1960年代から1970年代におけるプラモデルの人気の中心はあくまで実在する戦争兵器や車、飛行機などを精密に再現したスケールモデルであった。

「機動戦士ガンダム」は作中における精密なSF設定や演出、架空の年代記による仮想現実の構築、以降日本のプラモデル市場を席卷することになる「兵器としてのロボット像」の発明（ガンプラ）により、大ヒット作となった。「ガンプラブーム」はティーンエイジャー以上のファンが主導し、ガンプラの製造元であるバンダイでも玩具ではなく、戦闘兵器の模型という意識の下で製造だれていたと言われる。1981年の劇場版アニメの公開とともに模型雑誌やアニメ雑誌ではガンプラの特集が構成され、ガンプラの売り上げに一役買った。以降は『コミックボンボン』など、児童向け漫画雑誌も加勢するメディアミックスのなかでガンプラブームが形成されていく。このブームはさらに加速し、ついには原作アニメには登場しない模型オリジナルのモビルスーツ（ロボット）も登場することになる。これらの商品はガンダムの世界が実在した場合、そこで起きる戦争に実在したはずの改良型を想定して作られたものであり、ガンプラブームにはそのようなリアリティーの追求があった。原作としてのアニメと

<sup>5</sup> 松井広志「巨大ロボットと玩具／模型」『巨大ロボットの社会学—戦後日本が生んだ想像のゆくえ』法律文化社、2019、159p

それに付随する商品としての玩具、その主従関係の逆転とも言えるガンプラブームは、原作アニメの内部の物語とは相対的に離れた虚構世界を拡張していく、いわば「巨大ロボットを外部化するメディア」だと言える。<sup>6</sup>

#### 4. 「虚構の時代」の底流としての巨大ロボットイラスト

社会学者の見田宗介はその著作『社会学入門—人間と社会の未来』において、「現実」に対する3つの反対語（理想、夢、虚構）を挙げながら、戦後の日本社会を3つの時代に区分する。「理想の時代」は戦後間もない時期から1960年ごろまでの時期で人々がイデオロギーに基づいた理想のために生きていった時代、「夢の時代」は1960年代から1970年代前半までの高度経済成長期で、人々がより個人的な夢を追求していた時代、最後が1970年代後半以降の、人々が現実を振り向かわなくなった「虚構の時代」がそれである。松井広志によると、1970年代から1980年代にかけて巨大ロボットアニメから多くのヒット作が生み出されたこともまた、虚構の時代の象徴と言える。プラモデルなどのキャラクター商品を商売の中心とする巨大ロボットアニメが全盛期を送ったと言われる1983年は、東京ディズニーランドの開園や、ファミリーコンピューターの発売など、虚構の時代を代表するような現象が現れた時期でもあった。このような虚構の時代の産物である巨大ロボットとその玩具や模型は、そうした時代における虚構世界の「内部への深化」（1970年代）から「外部への拡張」（1980年代）へ向かう、「遊び方の変化」を体現していると述べられている。<sup>7</sup>

しかし、巨大ロボットアニメをめぐるメディアミックスの様相において、もう一つのメディアに目を向けると興味深い現象を見つけることができる。そのメディアとは、先述した巨大ロボットの玩具やガンプラブームが起きた時、それを支えていた児童向けテレビ雑誌のイラストである。『テレビマガジン』で代表されるこれらの雑誌は、読者にとにかく「情報」を提供したいという編集側の意志とコンテンツ（またはキャラクター）に関する「情報」を消費したいという読者の欲求が共存していたメディアであり、創刊初期には『仮面ライダー』などの特撮ドラマを主なコンテンツとして取り扱っていた。そして特撮ヒーローのブームが徐々に減っていった時点で登場し

<sup>6</sup> 同上、165p

<sup>7</sup> 同上、167p

たアニメが『マジンガーZ』である。その登場により、先述した通りロボットアニメとロボット玩具のブームが到来した。特に「超合金」シリーズの発売以前にも 50 万個が売れたと言われる玩具シリーズ「ジャンボマシンター」が巨大ロボットアニメの商業性を証明、視聴率においても 22.1%を記録、テレビ雑誌における新しい主力コンテンツに浮上した。そして『テレビマガジン』に初登場してから約 1 年後、マジンガーZの姿はアニメ原作のセル画ではなく、写実的なイラストで表現され始めた。

『テレビマガジン』初期の主なコンテンツであった『仮面ライダー』は特撮ドラマであるゆえ、誌上のグラビア企画においてはドラマの撮影現場から調達された「写真」による画報が用いられた(部分的には写実的なイラストも活用した)。これを通してヒーローや怪人の内部図解、敵軍団の組織図、ヒーローメカニックの機能の解説など、架空の物語を現実的に感じさせる情報が提供された。レンズによる一定の法則に従った(線)遠近法の描写、形態と材質感の克明で微細な描写、相対的ではあるが光の明暗を現実のままに再現する階調の描写など、絵画に比べた時の写真の持つドキュメタリイ的な特色がテレビ情報誌における「仮面ライダー」の世界観の構築にも用いられたと言える。ところで『マジンガーZ』の主力コンテンツ化に際して『テレビマガジン』の編集部の中では、ロボットアニメの基本的な視覚的要素であるセル画では、リアルな表現が難しいという認識が存在した。『仮面ライダー』の写真画報に比べれば線描といくつかの色面の組み合わせで成り立つ『マジンガーZ』のセル画の持つ視覚的な情報量の不足が目立つ。ゆえに編集部では、『マジンガーZ』のコンテンツを企画しながら「セル画じゃ表現できないようなリアルなイラストを描こう」として、本発表の第 2 節で紹介したプラモデルのボックスアートなどを描いた挿絵画家たちを起用したのである。<sup>8</sup>

セル画の単調な色面から脱し、写真に近い諧調の表現や、アニメロボットの素材を金属と想定した質感の再現、リベットやパネルラインなど、アニメでは表現されない機械的な細部の描写などを主な表現上の特徴とするこれらのイラストは『マジンガーZ』の時代から 1980 年代の『機動戦士ガンダム』の時代まで 10 年以上も長く続いた。その背景には 1970 年代におけるキャラクター・ビジネスの在り方の変化が存在した。1970 年代当時、玩具メーカーのタカラの社長、佐藤安太は自社の玩具シリーズ『ミ

<sup>8</sup> 小野浩一郎『テレビマガジン70'sーヒーロー創世記メモリアル』講談社、1998、115 p

クロマン』（1977）の開発責任者に「おもちゃというハードにソフトを付けて売るんだ！」と語っていた。ここで「ソフト」とは、キャラクターの立体物だけではなく、そのキャラクターたちが活躍する世界観の構築を意味する。『マイクロマン』の場合、『テレビマガジン』誌上で、編集部が企画・制作した『マイクロマン』の情報が提供された。この際、提供されていた「情報」は、かつてプラモデル専門誌が実在兵器の再現のための情報を与えていたように、空想兵器（玩具）が実在兵器のようなリアルさを備えるような仮想の「世界観」を構築するものであった。玩具メーカー側からも、このような世界観の構築は『マイクロマン』にリアリティーを与える作業として認識されていた。<sup>9</sup>

この『マイクロマン』の事例を考慮に入れると、ロボットアニメがテレビ情報誌の誌上でこのような戦争画様式のイラストを用いた理由も推論することができる。ドキュメンタリー性の強い写真を基に世界観の構築を図った『仮面ライダー』と違い、『マジンガーZ』のセル画では架空の物語にリアルな世界観を提供することが難しい。それを補う形で、写実主義的なイラストがテレビ情報誌における巨大ロボットアニメの主な視覚的要素に位置づけられたと考えられる。即ち、『マイクロマン』の時代（1977）にはすでに確立されているように見える世界観構築の方法論は『マジンガーZ』の浮上にその起源を持ち、このような手法は『テレビマガジン』以降に創刊され同種の雑誌にも共通する。

巨大ロボットアニメにおける主力のキャラクター商品であった玩具をサポートする形で、原作アニメから味わうことの出来るもの以上のリアリティーのある巨大ロボットの激闘の様相を少年たちに与えていたこれらのイラストは、『機動戦士ガンダム』の時代には1960年代や1970年代にスケールモデルのボックスアートや少年雑誌の戦記物語の趣向をより所説的に受け継いだような、まるで実在する戦場を彷彿させる場面を演出していた。また、イラストとガンプラで演出した戦闘の場面（ディオラマ）を紙面に並置するケースも目につく。

<sup>9</sup> 同上、86p

#### 4. むすびにかえて

本発表では 1970 年代から 1980 年代に人気を博した日本の巨大ロボットアニメとそのメディアミックスの様相をめぐって、その根底に一貫して流れる一つの現象に光を当てようとした。ロボット玩具やプラモデルのように、巨大ロボットアニメの代表的な商品を中心に考える場合、虚構世界の「内部への深化」（1970 年代）から「外部への拡張」（1980 年代）へと、時代によって著しい変容が見られることは否定できない。しかし、児童向けテレビ雑誌のイラストというもう一つのメディアを参照する場合、虚構世界の「内部化」と「外部化」とにかかわらず、虚構世界をまるで実在する一つの「世界」として子どもたちに認識させようとした、1970 年代から 1980 年代にかけてコンテンツの送り手側の持続的な試みが分かる。巨大ロボットアニメ原作における「動き」、玩具やプラモデルに備わる「物質性」に加え、テレビ雑誌的なイラストに見られる「写実性」など、それぞれのメディアの持つ特性が、虚構世界にリアリティーを求める「虚構の時代」の産物としての巨大ロボットアニメの性格を語っているのではないだろうか。

#### 参考文献

- 小野浩一郎『テレビマガジン 70's—ヒーロー創世記メモリアル』講談社、1998
- 平野克己『小松崎茂と昭和の絵師たち—プラモ・ボックスアートの世界』学研プラス、2007
- 日本プラモデル工業協同組合（編）『日本プラモデル 50 年史 1958—2008』文藝春秋、2008
- 坂田謙司「プラモデルと戦争の「知」—「死の不在」とかっこよさ」『「反戦」と「好戦」のポピュラー・カルチャー』人文書院、2011
- 野上暁『子ども文化の現代史』大月書店、2015
- 松井広志『模型のメディア論—時空間を媒介する「モノ」』青弓社、2017
- 松井広志「巨大ロボットと玩具／模型」『巨大ロボットの社会学—戦後日本が生んだ想像のゆくえ』法律文化社、2019

## 蠟山政道の東亜協同体論における「地域的運命」の意識について — 「Raumsschicksal」という概念の思想史的な溯源を中心に

北京外国語大学北京日本学研究センター博士前期課程 2年

黄嫣然

### 一、はじめに

1938年、日本の中国侵略は依然として猛烈であり、中国大陸の半分以上は戦火を浴びていた。日本の内閣は局地解決と宣言したが、軍部をコントロールできず、戦局が一方的に拡大していた。このような全面戦争に陥いた情勢に直面し、政治学者である蠟山政道は「国民の義務」として、戦争を収拾しようとした。彼は1938年11月号の『改造』で、『東亜協同体の理論』という論文を発表し、東亜協同体論を提出した。蠟山は戦争を「東洋の悲劇」として認識し、東洋各国のナショナリズムこそ「悲劇の原因」であり、超克しなければならない障碍である。超克の思想武器として、そしていわゆる「東亜新秩序」として、東亜協同体が提出される。蠟山によると、東亜協同体は「国際連盟の如き原子論的国家連盟ではなく、一種の協同的な有機結合から生まれた「地域的運命協同体」である。蠟山は東亜協同体論の提出でワシントン体制、あるいは国際連盟を欧米列強による普遍主義に対抗する新たな枠組みを作ろうとした。

この論文の発表は嚆矢となり、彼の構想をめぐる一連の論争が始まった。東亜協同体論は昭和研究会のメンバーである三木清や尾崎秀実、山崎靖純、加田純二などの支持を得ながら、内容も徐々に充実となる。そして、蠟山の東亜協同体論の提出の一ヶ月後、第二次近衛声明と呼ばれる「東亜新秩序建設声明」が発せられた。近衛の声明は中山優が起草したものであるが、蠟山の東亜協同体論の影響を受けたと考えられる。これは、一時期の日本政府の外交イデオロギー政策に影響を与えたとも言えよう。一方で、東亜協同体論も「民族や文化要素を比較的軽視する地域主義の主張」、「日本精神の文化的人道的価値否認の態度」などで取られ、右翼団体や社会学者の高田保馬らに批判された。また、蠟山の東亜協同体論で重要な一席を占めた中国側も厳しい拒否の態度を示した。

蠟山の東亜協同体論において、一つ非合理的な概念の提出が目立っている。それは、中心概念の「地域的運命(Raumsschicksal)の意識」である。これは、蠟山の論文の中で希少な外国語の単語が付いている概念となるものの、引用の注釈が見当たらない。松本(2011)が蠟山の一連の論文を分析した結果、1938年2月の「長期戦と日本の世界政策」では、地域的経済の「開発」を根底に据えた自由で科学的技術的な色調が目立っていたが、同年11月に発表された「東亜協同体の理論」において、「地域的運命の意識」や「生活本能の感知する運命意識」という非合理的な側面は新しく概念化されたと明らかにした。これが蠟山の東亜協同体論の形成過程において、一定的な意味を持っているとも指摘した。

従来の蠟山研究では、彼の行政学や地域主義を総括に分析するのが多い。蠟山は一人の知識人として、強い現実関心を持ち、知識人と政治のかかわりを論じるにふさわしい研究対象となる。また、結果論的な視角から蠟山の東亜協同体論を猛烈に批判するのも頻繁に見られている。しかし、その理論の内容自体に関する分析は未だ少なく、「地域的運命の意識」という概念の提出にかんする考察もほぼ無いとも言える。本文において、「地域的運命」＝「Raumsschicksal」の由来について、主に二つの部分に分けて分析を行いたい。第一に、蠟山政道自分の理論構造の範囲内で討論したい。

「地域的運命の意識」の理論背景である東亜協同体論が蠟山の思想構造における位置を明らかにする。そして、『東亜協同体の理論』（1938）という論文を中心に、この非合理的な概念の内容を究明し、彼がここまでたどり着いた論証の過程を簡単に分析する。原文において、「地域的運命」に「Raumsschicksal」というドイツ語の単語が付き、これは一つの舶来概念であると提示した。その故、第二に、彼の理論本体から一步離れ、ドイツ語の単語を手掛かりとして、この概念の由来を追跡し、原型である概念を究明したい。蠟山の概念と原型の間の距離を吟味する作業を通じて、彼の妥協と自己合理化、従って一九三〇年代の日本の知識人たちの思想の葛藤を還元させることにも有意義なのではあるまいかと考える。「自由主義的進歩主義の系統に属する学者」と南原繁に評価された蠟山は、如何に緊張な時局に向かい、そして如何にファシズムとジンゴイズムに飲み込まれたのか。彼の東亜協同体論の理論原型への溯源によって、これらの問題をある程度に究明できると思う。

## 二、蠟山の東亜協同体論と地域的運命意識

蠟山自身の理論体系において、東亜協同体論は急遽現れたものではない。蠟山が国際関係にかんする認識の巨変も「転向」とは言えない。むしろ東亜協同体論は、蠟山の地政学に関する思考とその独自の「地域主義」という延長線で醸成され、「支那事変」（抗日戦争筆者注）や国際情勢の巨変と伴い、大きな変化を遂げた理論である。彼のナショナリズム的な感情もここで触媒的な作用を果たした。その他、東亜協同体論の発想について、彼の1938年（昭和13年）の夏に上海での現地調査とも深く関連する。この変化と関連にかんして、彼自身の論説で見られる：

『實に豫期された以上に大規模に発展した日支事變は、總國力を擧げて邁進すべき興亜の大業となるに及んで、その事變處理方針も亦拔本塞源的の構想を必要とされるに至つた。事變勃發後一年、即ち昭和十三年の夏、著者は支那現地に赴いて、そこに展開されつつある事變を通ふして来るべき東亜新秩序の構造が如何なるものであろうかを考要する機會を得た。そして帰來、一篇の論文を雑誌「改造」に發表した。それが本書の冒頭に載せた「東亜協同體の理論」である。（蠟山 1941）』

これを背景として、蠟山は『東亜協同體の理論』において、地域的運命協同体を提出した。蠟山によると、地域的運命協同体は：

- (一) 日本の大陸發展の内在する原理；
- (二) 民族主義や三民主義、共產主義に対する思想武器；
- (三) 東洋として世界史的使命に覺醒し、東洋の統一を実現すべき指導原理であり、蠟山の東亜協同体論における中心な概念であると考えられる。實際なところ、東亜協同体は地域的運命協同体であるとも言える。運命協同体は科学的觀察や説明から生まれたものではなく、東洋の民俗そのものが經驗する現實の發展過程に伴い、生成されて行くのであると蠟山がいう。この生成過程を論証するために、彼もまた詩歌や「ことば」のいわゆる直観的な表現に求める。ここであげられたのは、岡倉天心の有名な「アジアは一つだ」という論説である。

しかし、東亜協同体の存在を理論的に証明するのは、詩人や芸術家の作品からもらった証拠がまだ物足りない。「東洋」という地理的な地域は確かに存在しているが、地域的な文化を探れば、「東洋地域において、西洋文化のように近世のルネッサンス及びバロック文化の如き巨大の文化運動が欠如」していたため、「未だ混沌たる文化狀況に陥り、地域的協同体が生まれてこない」。蠟山は「地域的協同体といふ為に

は、自然的恒常素又は文化的不統一の外に何物かが存在しなければならない」という認識から出発し、最後にたどり着いたのが「地域的運命の意識」である。

「東洋が地域的協同体となる動因は、先づ、その精神と心意にある。その民族の地域的運命 (Raumsschicksal) の意識から発生するのである。民族の存在を支配する運命が特定地域と結合しているといふ意識から生れて来なければならない。東洋民族の生存と復興と向上とがその特定地域における平和と建設とに懸つているといふ生活本能の感知する運命意識から生成して来るのである。……かやうな運命協同意識を基礎として、その上に行はれる合理的な開発と計画との樹立遂行が東洋を新たに地域的協同体として創造するのである。」 (傍線筆者 以下同じ)

その後、蠟山は引き続き論証を進む：

「東洋が地域的運命協同体であると云ふ意味は次に政治的である。それは東洋文化の構造が東亜といふ一定の地域的擴りを有すると云ふ恒常的条件に依存するのではなく、民族の共存共栄の運命の意識化としての使命意識が、従つて政治運動がこれを創造するといふ意味である。」

地域的運命の意識は「精神と心意」の面の要素として、地域的運命協同体の形成する動因となる。民族の生存と復興と向上がその特定地域における平和と建設に掛かっているという生活本能を感知することから生まれたものである。精神的な紐帯が強調される。そして、東洋が一つの地域的運命協同体であることも政治的な意味を持っている。「民族の共存共栄の運命」の意識化である使命意識は「政治運動」の駆動力となり、やがて「政治運動」によって、東洋における地域的運命協同体が作り上げられた。ここで、「地域的運命の意識」は蠟山の地域的運命協同体、すなわち東亜協同体の形成の直接の原因となり、その形成過程の多方面に深く関与しているとも言えよう。

その他、蠟山の協同主義への関心は無視できないことであると考えられる。この関心は理論名から既に見られる。よく使われた「共同体」の概念をそのまま使わず、「共」を「協」に変わり、「協同体」を採用した。これは蠟山の協同的有機体への関心から来たものであると思う。1935年9月、10月号の『国家学会雑誌』で、蠟山は「政治的統一の諸理論 (一)、(二)」という二つの論文をそれぞれ発表し、其の中に、特に米国の政治学者エリオットが創案した「協同的有機的概念」を紹介した。エリオットの協同的有機体論 (Co-organic theory) は「個人並に集團の個別的な目的要素と全体的な有機的要素との両者を満足せしむると云ふ要請の上に成立つてゐる」もの

である。「co は、共同行動における相互分担を意味する。それと同時に、有機的生活は構成員の相互関係によって創られ、制約せられる」という意味であった。協同的有機体論に立つ時、「立憲主義は始めて全体主義や独裁主義に対立し得る」のであった。協同的有機的概念は立体的であり、蠟山が考えた国家と個人の調和、彼のファシズムとの対抗に適切なのであろう。このような国家の強制権力にたいして個人の理想的な相互関係は蠟山に地域関係の構築に応用された。その結果として、「東亜共同体」ではなく、「東亜協同体」が提出されたと考える。

### 三、地域的運命 (Raumsschicksal) の意識

引用された論文を明記する場合のほか、蠟山の論説で外国語（主に英語とドイツ語の単語）が登場する状況はかなり希少である。外国語の単語で概念を説明するのも「地域的運命」という一つ概念に限られている。この概念の舶来の特徴について考えると、「Raumsschicksal」を中心に考察する必要がある。「Raumsschicksal」は「Raum」＝「地域、空間」と「Schicksal」＝「運命」、そして接続の「s」で構成された一つの複合語である。より詳しい検討が必要であるが、現時点で把握した資料によれば、「Raumsschicksal」が蠟山自分で作成した一つの複合語の可能性はかなり高いと考える。この仮説を踏まえ、「Raum」と「Schicksal」の二つの単語にわけて、「地域的運命」という概念の溯源を進みたいと思う。

#### (1) 「Raum」＝「空間、地域」

ドイツ地政学 (Geopolitik) において、「Raum」は一つ重要且つ基本的な概念である。多くの場合では「空間」、社会学的にも「地域」に翻訳されたが、その具体的な内容と意味はかなり複雑であり、「Raum」の本来の意味とその外延を他言語で表すには、ほぼ不可能であるという観点もある。政治地理学の祖である Friedrich Ratzel によると、「空間」(Raum) には、いわば無限的観念として「空・無」(Leere) の意味と有限的概念として「区域・環境」(Weite) の意味とがある。ここで、空間概念 Raum はこの二つの異質的な概念を一つ概念として統一させるものとならなければならない。「空間」(Raum) の無限と有限の二面性の統一、やがて実体の消失まで到達したのは一九三〇年代日本の地政学の一つの傾向として見られている。日本地政学の創始者である小牧実繁は、「皇道地政学」を掲げ、日本精神の強調と地政学を連結した。彼も「時空間」(Zei-traum)＝「無始無終天壤無窮の時間性の範疇」

という概念を提出し、時間と空間を統一させ、「両者一如」を前提として進んだ。それは西洋的世界観に対する独自の世界観の構築を促すものであったと評価されている。(これも恐らくその時の日本知識人の共通姿勢であろう)

「Raum」という概念の提出において、蠟山の地政学への関心が見られる。実は、早期の地政学者たちも、彼の国際関係論に大きな影響を与えた。彼の地政学の具体的な展開を考察すると、マッキンダー(Halford J. Mackinder)流の国際政治の分析枠組を基礎として組み立てられているという共通の傾向が見られる。例えば、彼はマッキンダーのlandmanとseamanの倫理により、「海洋国民」と「大陸国民」を創出し、「二つの陸と海の運動が相合する所がほぼ東アジア」という論点を提出したである。これを背景として、開国まもなく世界資本主義の一環として組み込まれた日本は、西欧帝国主義との闘争とアジアに居住する諸民族との提携、という「二重の課題」に直面しなければならない。

そして、本題に戻ると、蠟山の東亜協同体論における「Raum」＝「地域」という概念も、「無限」と「有限」の二分法に則り、小牧と相似の傾向を持っていたと考える。東亜地域は「一定の地域的擴りを有すると云ふ恒常的条件」のみならず、「精神と心意」や「生活本能の感知する運命意識」もそこで漂っている。後者は協同体形成の動因さえとなった。いわゆる巨大な文化運動を探すために、歴史へ顧みるという底が見えない作業を試んだことから見れば、蠟山の理論構造において、垂直比較でしか存在しない「歴史的」な東亜の影が見える。

## (2) 「Schicksal」＝「運命」

蠟山の言う「運命」は、「共存共栄」の状況に導き、「東洋が東洋として世界史的使命に覚醒し、東洋の統一を実現する」という願望合理させる中心的な「もの」であるとも言える。「運命」は民族を支配する力を有する。学術的な概念より、彼の「東洋民族」の現状にたいする認識に近いと思う。「Schicksal」という言葉選びについて、社会学者の高田保馬(1939)が蠟山の「地域的運命協同体」の提出に対して、これは「オオストリアのマルクス主義者オットー・バウアー(Otto Bauer)が民族の本質(運命協同体としての性格協同体)として掲げ出せる概念」であると指摘した。この観点について、考察したいと思う。

オットー・バウアー(Otto Bauer・1881-1938)はオーストリア社会民主党の理論家と政治活動家であり、社会主義インターナショナルの指導者でもある。理論界や

マルクス理論範囲において、バウアーの学説と主張は賛否両論であるものの、彼が『民族問題と社会民主主義』(Die Nationalitätenfrage und die Sozialdemokratie, 1907) という大著において提出した民族理論は名が立っている。「マルクス主義において先駆的かつ本格的な民族理論」とであると評価される。バウアーによると、民族というのは相対的な性格共同体である。この性格共同体の形成において、同じ動因、すなわち、「運命」が提出された。ここで、民族は運命の共同体となった。彼はその後、「運命共同体」にかんして詳しく説明した。まず、「共同体」にある共同性は同一性ではない。バウアーはここでカントの経験の第三の類推である共同性の原理を踏まえ、いわゆる「共同体」は「普遍的相互影響」を意味すると定義した。この定義に基づき、民族が一つの運命共同体になるのは、同民族の人々は絶えざる交通、継続的な相互作用において、同様の運命を共に経験することとなった。その故、民族は運命共同体から生まれた性格共同体である。上記のように純粋な理論のほか、バウアーもドイツ民族の形成歴史をふりかえ、自分の民族の定義を実例で論証した。

20世紀初頭、オーストリア社会民主党は国内の一大無産階級政党として、階級闘争を指導しながら、国内の極めて複雑な民族問題にたいして、自分の解決策を出さねばならない。ここで提出されたのはバウアーの民族理論である。彼の理論が最後に辿り着いたのは「民族の文化自治」である。無論、バウアーの民族理論と比べ、蠟山の東亜協同体論はかなり相違の存在である。バウアーによると、「文化の共同性によって構成された同一起源の人々の連結がないかぎり、彼らは一つの民族になれない」。一方、前文の分析の通り、蠟山が「地域的運命の意識」に到達したのは、東亜地域は「未だ混沌たる文化状況に陥り、地域的協同体が生まれてこない」という状況にあるからである。

しかし、蠟山の論述において、一つ興味深い現象がある。それは、「東洋民族」という概念の曖昧さである。文中、「東洋諸民族」、「東洋の諸民族」、「東洋の民族」などの言葉が現れつつ、「東洋民族」という統一性を帯びている概念も説明されず、ごく自然に出てきた：

「その世界的機構としての半面の真実性すら、その商業的植民地的帝国主義と両立し得るように、東洋諸民族の地域に対して何等の統一性を認めず、東洋の統一を分割する方針の下に行はれたのである。」(傍線筆者 以下同じ)

「今次事変の最大の意義が、日本を先頭とする「東洋の統一」への東洋民族の覚醒にあることは観念的には最早疑を容れない。」

時々、「支那」という「民族」も「東洋民族」から取り出し、それぞれに論証を進んだ。

「支那の場合におけるナショナリズムは、……すなわち、自己がナショナリズムを受取る時、それが東洋地域に如何なる変化を惹起し、他の東洋民族に如何なる運命を齎らすかについて、充分の省察を有たなかつたことである。」

そして、地域的運命の協同体の論証部分に入ると、前文での曖昧な概念はついに明白になり、この統一的な「東洋民族」が文脈の流れに従い、自然に「誕生」した。これも、バウアーの民族と緊密な連結を持つ「運命共同体」の理論の影響からのではないかと考える。バウアー自分の理論で「民族精神」などの神秘学的な論説を反駁したが、「Schicksal」もまた一つ非合理的な色彩を帯びている概念である。この潜在的な非合理性は蠟山にうまく拡張され、「東洋民族」を統一民族として誕生させたと同時に、「特定地域」とも結合された。

そのほか、バウアーは「改良主義とポリシェヴィズムの間」に立つ「第三の道」の政治姿勢を取りつつ、政党による議会闘争をめぐって政治活動を展開していた。これは蠟山の「民主社会主義」の立場と一定的な親近感も感じられる。日本早期の社会主義は第二インターナショナルに深く影響され、蠟山がバウアーの著作を手に入れた可能性もかなり高いと思う。

しかし、蠟山の著作全集が入手しがたいため、未だ見つけられる資料はかなり少ない。また、この概念の具体的な引用源が記載された蠟山本人の原稿なども見当たらないところである。現時点で、これは蠟山がオーストリアマルクス主義者オットー・バウアー (Otto Bauer) の民族理論からもらった啓発であるという結論に達したが、より詳しく考察する必要がある。一方、直接的な証拠の希少も想定内のことであると思う。全体的に言うと、蠟山の学説には確かに一定的な社会主義の傾向が見られる。しかし、蠟山が首相の私的ブレイントラスト の中心人物であり、「東亜協同体論」も政府の対外政策を合理化させる理論体系である。戦時期の日本国内の社会環境において、この中の共産主義の色彩を極力に隠すのも想定できると思われている。

#### 四、むすび

「Raumsschicksal」という複合語と同じく、「地域的運命」にも二重性がある。本文において、「Raum」と「Schicksal」をわけてそれぞれに溯源した。「地域的運命」という概念は、蠟山の地政学に構築された国際関係への認識と、彼がマルクス主義者の民族理論からもらった啓発との結合であるという結論を辿ってみた。無論、本文には、まだ討論不足なところがある。蠟山の理論とオットー・バウアーの民族理論との距離にかんして、より詳しい検討が必要である。また、紙幅のため、「東亜協同体の理論」を中心に分析してみたが、期間が短い東亜協同体の論議において、蠟山はほかに幾つかの論文も発表した。それらの論文を比較的に考察すれば、彼の理論の変化も溯源できるのではないかと考える。

蠟山政道が口火となった東亜協同体論は激変を重ねる国内および国際情勢にあつて、昭和十五年頃になると急速にその本来的な意義を失った。その論議はやがて約一年余りという短い期間しか継続しかなかった。そして、蠟山の「東亜協同体論」も国内の反論を受け、大半の無関心層が存在するという現実と直面していた。その孤立を避けるのもいよいよ難しくなってきたのである。蠟山の複雑な思想構造と社会位置が、論説に浸透し、今、その論説は既に一つの思想史の標本となった。

蠟山の「東亜協同体」の理想は彼の時局にたいする妥協と「柔軟」、そして時局そのものにより歪曲され、侵略行為を粉飾するイデオロギーに陥いた結局となった。強い現実関心を持つものの、現実を背けて、敢えて理想主義に沈み込む行為は実際蠟山にとって一種の「安心」とでもなる。当時変態な政治情勢に対する蠟山なりの反抗でありながら、後世に現実逃避として捉えられるのは怪しくないと思う。蠟山の東亜協同体論を分析することを通じて、戦時期日本知識人の矛盾と葛藤を接近できるような気がする。

蠟山の時のような極端な情勢には及べないが、日中両国の相互交流がより緊密化になっていくと同時に、排他的な傾向も増大している。このような日本側の閉じた精神と中国側の閉じた精神とが国民レベルで増幅しあい、相乗効果を重ねて破裂にいたりかねないことである。両国関係の悪化という現実と直面して、排他性を持つナショナリズムとグローバリズムとの間の矛盾を如何に解決するのか。対立と矛盾を緩和するために、一度歴史を省みて、慎重に整える必要があると信じる。ここで、知識人の背負うべき責任は引き続き問い直されているのだろう。

## 参考文献

- 蠟山政道 『東亜と世界 ―新秩序への論策』 改造社 1941年
- 松本三之介 『近代日本の中国認識:徳川期儒学から東亜協同体論まで』 以文社  
2011年
- 伊藤のぞみ 「昭和研究会における東亜協同体論の形成」 岡本幸治編著『近代日本  
のアジア観』 ミネルヴァ書房 1998年
- 今井隆太 「戦時期日本の東アジア共同体論」『国際経営・文化研究』第二号 2009年
- 上条勇 「オットー・バウアーの民族概念 マルクス主義民族理論の反省」 『金沢  
大学教養部論集 人文科学篇』第二号 1993年
- 王継洲 「蠟山政道の政治外交論―都市と農村との調和から東亜協同体へ―」 博士  
学位論文 早稲田大学大学院社会科学部研究科 2020
- 斎藤光格 「ドイツ社会地理学の主要概念」 『地学雑誌』第五号 1973年
- 佐藤健 「日本における地政学思想の展開:戦前地政学に見る萌芽と危険性」 『北  
大法学研究科ジュニア・リサーチ・ジャーナル』 2005年
- 境野明誠 「古典的地政学の構成原理について」『経済地理学年報』第二号 1967年
- 高橋久志 『「東亜協同体論」―蠟山政道、尾崎秀実、加田哲二の場合―』 三輪公  
忠編 『日本の一九三〇年代』 彩流社 1980年
- 波多野澄雄 『「東亜新秩序」と地政学』 三輪公忠編 『日本の一九三〇年代』 彩  
流社 1980年
- 平石直昭 『現代日本の「ナショナリズム」―何が問われているのか』 『社会科学研  
究』第一号 2006年
- 蠟山政道 「東亜協同体の理論」 『東亜と世界 ―新秩序への論策』 改造社 1941  
年
- 奥托・鮑威爾著 殷叙彝編『鮑威爾文選』 人民出版社 2008年
- 馬冰潔 「日本早期社会主義者的思想及其轉向―以安部磯雄的思惟轉向為中心」 『社  
会主義研究』第5期, 2022年
- Werner J. Cahman, The concept of raum and the theory of regionalism, American  
Sociological Review, 1944(5)

## 戦時児童文学における鉄道旅

### ——「あじあ号」という文学空間の創出——

高麗大学大学院

隋 澤宇/SUI ZEYU

「あじあ号」とは、1934年から1942年まで旧植民地「満州」の奉天（今大連）と新京（今瀋陽）の間を走っていた蒸気機関車である。満鉄が運行するこの列車は、時速八十二キロ、「超特急」の名が冠され、当時世界最先端の流線型デザイン、広々とした車内空間、夏は冷蔵装置、冬は暖房装置、座り心地よい座席、高級的な食堂車に美しいロシア女性ウェイター...そして、何よりも満鉄関係者が自慢できるのは、満鉄独自の開発・製造と「満州」の製品だけを使うことである。その運行初期から、満鉄は国内外の記者や有名な作家などを乗車体験に招待した。「あじあ号」に関する記事や紀行文、歌、映画など次々と発行された。その宣伝効果だけあって、在満日本人たちのみが「あじあ」、「あじあ」と騒ぐのではなく、日本「内地」においても、「満州ブーム」が一層煽り立てられた。「陸上の王者」と呼ばれる「あじあ号」が広大な「満州」平野を疾走する画面は、代表的な「満州」風景となった。

しかし、鉄道と機関車は先進的な近代文明のシンボルとして誕生する際に、自然に対す破壊や固有文化への衝撃なども同時に生じた。暴力性と侵略性はその本質にあるものである。特に、植民地の鉄道は、元から植民の手段として使われるものである。「あじあ」が走る中央本線は、ロシアによる敷設された東清鉄道であった。日露戦争によって日本がその権利を手に入れた。鉄道建設による植民地土地への破壊や資源の略奪、労働者の搾取などはすでに戦後研究者たちに指摘された。植民地「満州」の平野を堂々と走る、「満鉄」一番自慢の機関車「あじあ」は、鉄道権益から始まる植民支配のシンボルともいえよう。植民者の夢と自慢と共に、被植民者の血と涙を乗せるこの「あじあ号」は、子どもたちの世界にも勢いよく入ってきた。

1934年、「あじあ号」運行開始以来、最初はグラフ雑誌や新聞のグラビアページなどに特急「あじあ」がたくさん登場するが、絵本にも影響を受けてたくさん登場した

という<sup>10</sup>。そして、『満州物語』（1942）、『児童百科大辞典（満州国地理通論）』（1937）、『子どもの満州』（1936）など子ども向けの満州人文・地理を紹介する読み物にも「あじあ号」の写真や紹介文が確認できる。「あじあ」が教科書に登場したのは1937年から、石森延男「「あじあ」に乗りて」が小学五年生用の国定国語教科・巻十に採用された。同じ頃、小学校唱歌でも「南満本線」や「あじあの歌」などが登場した<sup>11</sup>。そして、石森延男の長編創作童話『スングリーの朝』（1942）、紀行文の形式で創作された長与善郎『満州の見学』（1941）、田畑修一郎『ぼくの満洲旅行記』（1944）などには、主人公の子どもが「あじあ号」に乗って旅する場面がある。

勿論、すべての文芸が国策路線に沿わなければならない戦時体制のもと、児童文学に「あじあ」の登場は決して偶然ではなかろう。その目的は明らかである。憧れの対象を作り上げて、子どもたちをいわゆる「大陸夢」に夢中させ、植民地「満州」ないし戦場へ勧誘することである。実際に、その目的が達成していた。

たとえば、作家室生犀星の印象によれば、「満州」にいる子どもたちは、遊びの中で「あじあ」という言葉をたくさん使っているし<sup>12</sup>、日本「内地」においても、当時の国語教科書が満州に夢を求める傾向を煽り立てる役割を果たし、「あじあに乗りて」を読んで満鉄に入ることを望む少年も増えたという<sup>13</sup>。まだ「あじあ」に乗ったことのない子どもたちは、「私もいつのか日にか、必ず乗れる時があると、楽しみに待つ」<sup>14</sup>「ぼくもいつかはこの東洋一の機関車を動かして見せるのだ」<sup>15</sup>などと志を表した。そして、実際「満州」へ旅してきた児童「綴方使節」<sup>16</sup>たちもその紀行文において「あ

<sup>10</sup> 関田克孝 講演「乗り物絵本の歴史と魅力」、2001、p8

<sup>11</sup> 天野博之『満鉄特急「あじあ」の誕生：開発前夜から終焉までの全貌』、原書房、2012、P259—261

<sup>12</sup> 天野博之『満鉄特急「あじあ」の誕生：開発前夜から終焉までの全貌』、原書房、2012、p 187

<sup>13</sup> 天野博之『満鉄特急「あじあ」の誕生：開発前夜から終焉までの全貌』、原書房、2012、p 260

<sup>14</sup> 南満洲鉄道株式会社鉄道総局等編『綴方満州』、修学館、1940、P254

<sup>15</sup> 南満洲鉄道株式会社鉄道総局等編『綴方満州』、修学館、1940、P197

<sup>16</sup> 満鉄より主催された「日満綴方使節」活動。1939年、1940年、1942年計三回。日本と「満州国」の両方で男子・女子学生が「日満綴方使節」として選ばれ、それぞれ「満州国」と日本を旅行し、それについて綴った。第一回と第二回の作品は、それぞれ『綴方満州』（修学館、1940）と『綴方日本』（出版されず関係者のみに配布されたという）という二冊にまとめられた。（魏晨『「満州」をめぐる児童文学と綴方活動：「満州国」の次世代はいかに生み出されたのか』、名古屋大学、p91を参照）

「あじあ号」のことについて、「一番乗りたがった汽車」<sup>17</sup>、「あこがれの「あじあ」」<sup>18</sup>、「満州といえば「あじあ」」<sup>19</sup>などと書いた。その願いの強さからみると、子どもたちにとっての「あじあ」は、すでに夢や憧れを越えて、一種の信仰となったともいえよう。

では、植民支配のシンボルである「あじあ号」はいかに信仰的なものとして作りあげられたのか。本発表は、このような問題意識をもって、戦時の児童文学から特急「あじあ」に関する文を研究対象として抽出して分析する。具体的には、戦時児童文学における「あじあ」を一つの文学空間として、その空間の外から描写された「あじあ」、「あじあ」の内部（車室）、外部（沿線の風景）という三つの視点から分析を行う。

まず、外部の視点から「あじあ」に対すを描写する際に、子どもの想像力を引き出すレトリックはよく使われる。そのほとんどは、子どもに武器や軍隊など、すでに美化された戦争に関するものに連想させることで、「あじあ」を正義なイメージにして、子どもの興味や憧れを引き出す。しかし、長与善郎は『満州の見学』において、「あじあ」を「海蛇」に例える。「海蛇」とは、毒性の強い海生の蛇である。かまれると死に至るし、その「大きな」体も抵抗しようもない恐怖を感じる。しかし、海のない一面の「満州」平野を走る「あじあ」は、なぜ「海蛇」なのか。これについて、二つの解釈方がある。一つは、陸生の蛇と比べ、もともと「満州」の土地に存在しない海生の蛇は「侵入者」として大陸に入り込むことで、日本が大陸へ侵入する行為を意味すること。二つはその実際の存在の不可能によって、少しでも子ども読者の恐怖感を緩めること。どちらにしても、長与善郎の『満州の見学』は、様々なレトリックで「あじあ」に正義を飾る作品に反して、あえてその暴力性を子どもに見せる異例である。

そして、物語が展開する空間としての「あじあ」の車室は、実は最上層の植民支配者のみ集まる閉鎖的な「特権の空間」である。そこで、子どもの「満州体験」という概念が「支配層の特権体験」とすり替えられる。そこで出会う「他者」との関係性を通じて、子どもに自分が「満州」の支配側という認識を打ち込み、「特権者」へのアイデンティティの変換を完成させる。例えば、石森延男の「「あじあ」に乗りて」にお

<sup>17</sup> 南満洲鉄道株式会社鉄道総局等編『綴方満州』、修学館、1940、P155

<sup>18</sup> 南満洲鉄道株式会社鉄道総局等編『綴方満州』、修学館、1940、P158

<sup>19</sup> 南満洲鉄道株式会社鉄道総局等編『綴方満州』、修学館、1940、P133

いて、主人公の「ぼく」は、ロシア人の母と娘、そしてロシア少女の給仕という三人のロシア人と出会った。「ぼく」に日本語で声をかけてくるロシアの女の子と、この地の主人役のように「満州」の伝説を紹介してあげる日本人の「ぼく」。親切にサービスを提供してくれるロシア少女と、初めて「あじあ」を乗るのに、平気にそのサービスを受ける「ぼく」。この二つの関係性は、「あじあ」において、「満州」において、特にロシアと比べると日本の植民支配者としての地位に象徴されるといえる。つまり、「あじあ」で「他人」であるロシア人との出会いは、「ぼく」に、あるいはこの教科書を読む小学生に、ロシア人と比べると、日本人としての自分こそが「満州」の土地での「支配者」であることを暗示する。同一作者が書いた長編童話『スングアリー朝』において、主人公の一郎が出会った女子学生も同じように機能する「他者」である。そして、「あじあ」に乗る子どもは、軍人とも出会う。親切で明るい軍人像と戦争美談を通じて、子どもが「あじあ」で享受する支配者の特権を正当化する。『スングアリー朝』には、主人公の一郎が夜の「あじあ」の車窓に映った自分の姿に対して、違和感を覚える場面がある。ここで、一郎自身は見知らぬ「他者」となった。それは、これからの「満州」での暮らしに対する不安感を表現す子どもらしい心理活動であろう。その「あじあ」の車室に座っている一郎は、これまで「満州」のことをちっとも知らない一郎であり、外の「満州」の大地から覗いてくる一郎は、これから「満州」での「支配側」として生活していく一郎であると考えられよう。ことらの一郎がそちらの一郎をよく観察する場面は、アイデンティティに対する再認識の過程に象徴されると考えられる。

最後、「あじあ号」外の文化的景観と自然景色を分析すれば、子どもたちが車窓を通じて見る「満州風景」は、真の「満州風景」ではなく、植民支配者の野望で創出された抽象的な風景であることをわかる。実際の「あじあ」の沿線風景は単調で変化に乏しいが、「あじあ」に乗りて」を読めば、どの駅を通過しても見どころがあり、それに合わせるエピソードまで用意されたので、「あじあ」の旅は実に充実なものだと感じる。勿論、そのほとんどのが戦争に繋がるものである。その中、特に注目したいのは、車窓を通じて見えるように書かれた「公主嶺」は、実は「あじあ」の車窓から見えないということである。作者の石森延男は「四平街から公主嶺が見えない」という事実を知らないわけではない。それもかまわず、誤った地理知識を子どもに教え

た。そのことから、「あじあ」の本当の沿線風景を紹介することより、いかに戦争美談を組み入れ、いかに子どもの憧れを引き出すこそは大事なことだとわかる。戦争要素の多い文化的景観に対して、「あじあ」沿線の自然風景の描写は、平和な雰囲気を引き立てる。その中、動物に対する描写がよく見える。動物たちがのんびりした「満州」平野は、実に穏やかに見える。平和な自然風景と戦争美談が溢れる人文的風景は同じ文脈に置かれて語られると、その平和が戦争によるものように考えられよう。そして、「あじあ」車室内にいない「満州」の人々は、車窓外の畠の景色の一部として描かれるが、働いている姿しか書かれなかった。動物と「満人」のほか、赤い色の土、茂っている楊柳なども「満州らしい」風物としてよく描かれる。立場の違いによって、外の景色の眺め方や外界の意味も当然異なって来る<sup>20</sup>。豪華列車である「あじあ」に乗る支配者たちの視線では、破壊された自然や労働者の苦しみなど一切見えず、ただ肥沃な土、家畜、木材などの植民地資源、そしてよく働いてくれる「満人」など植民に有利な「風景」が見えるだけ。そして、その「風景」をそのまま子どもに見せた。

つまり、戦時の児童文学において、「あじあ」という文学空間を作り上げるとき、植民地「満州」の人、生活、風景など、すべて排除され、植民支配のシンボルである「あじあ」の暴力性と侵略性はあらゆる手段で隠された。その代わりに語られるのは、虚偽の正義と夢に見せかけた植民者の野望である。この空間に入った子ども読者は、「あじあ」の夢を見るしかない。けれど、特権階級の豪華列車「あじあ」はすべての子どもに夢を実現させてくれない。実際に、大陸に渡った日本人たちのほとんどは、「あじあ」に乗ることなどできなかつたという<sup>21</sup>。いわゆる「あじあ神話」も、戦時の子どもたちに聞かせた数々の嘘の一つに過ぎない。

<sup>20</sup> 小関和弘『近代日本の社会と交通14：鉄道の文学誌』、日本経済評論社、2012、p 83

<sup>21</sup> 高橋団吉「パシナ・ブルーの軌跡——満州特急「あじあ」の駆け抜けた時代」、『ユリイカ』36巻6号、2004、p76

## 村上春樹「眠り」における妻の表象

### ——専業主婦の無音の叫び——

筑波大学国際日本研究学位プログラム、博士後期課程3年

ホメンコ・ナタリア

#### はじめに

村上春樹は、1980年代後半から1990年代に女性を主人公とした短編作品を多く発表した。「眠り」(1989)をはじめ、「加納クレタ」(1990)、「ゾンビ」(1990)、「緑色の獣」(1991)、「氷男」(1991)などの作品が挙げられる。その中には女性の一人称によって語られるものがあり、女性の視点から物事が捉えられている。

本論では、「眠り」を取り上げ、語り手である専業主婦の「私」を対象とし、無音の叫びの描写に注目しながら、その意味について考え、女性の心情や、直面する問題について分析・考察を試みる。

初出『文學界』1989年11月号、『TVピープル』(文藝春秋、1990年1月)収録の「眠り」の主人公である「私」は夫と息子との三人暮らしをしている専業主婦である。一見ごく平凡な生活を送っているが、ある夜に見た悪夢のため「不眠」になり、物語は彼女が不眠になってから17日目を迎えたところから始まる。それまでの生活は、「不眠」になる前となった後に分けられることになるが、その原因を探るためにも、前者はどういったものだったか見ていく。

#### 1. 気づかれない声

「私」の夫は歯科医で、息子は小学校二年生である。毎日家事をてきぱきとこなし、家族の世話をしている。夫が朝食をとりに帰宅するときには食事を作り、子供におやつを与え、全員それって晩御飯を食べる。午前中は買い物や掃除や洗濯を済ませ、午後はショッピングをし、スポーツ・クラブで30分程度の水泳をしたりと、自分の時間が持てる。

「私」の不眠以前の生活に関する次の記述がある。「今でももちろん私たちは幸せだと思ふ。夫のことが好きだし」(p.187)一見問題のない生活に見える。しかし、「文句は言えない、もちろん私だって、夫と一緒に食べたほうが楽しい」(p.187)という言い方に注目すると、確実にそうであると誰かを納得させたいように聞こえ、最

も自分自身にそう言い聞かせるようにも見える。その上、矛盾することがあり、「もちろん私だって彼のことが好きだ。愛していると思う」だが、「特に気に入ってはいない」(p.186)し、彼の顔を描こうとしたとき思い出せなく、そのことを「不安に思う」(p.185)「毎日だいたい同じことの繰り返しだった。(中略)何という人生なんだろうと時々思う。(中略)私はただ単に驚いてしまうだけなのだ。昨日と一昨日の見分けもつかないという事実。」(p.190)

このように今の生活に小さな不満や驚きなどが積もるばかりで、自分の心の声が「何かが違う」というのにそのことを気づかないでいる、あるいは気づこうとしない「私」が「家庭にはトラブルの影ひとつない」(p.187)と断言し、今まで通りの「幸せ」な家庭の妻の役割を完璧に果たし続けている。

## 2. 無音の叫び

「私」はある夜、不思議な夢を見る。夢の中では、古風な黒い服を着た老人が、水差しを持って足に水をかけていた。「私」にとってそれはとても夢であるとは思えず、「これは現実なのだ」(p.191)と思うほどであった。老人の様子は、「髪は灰色で、短く、頬はこけていた(中略)とても大きな目で、そこに浮き上がっている赤い血管の筋まではっきりと見えた」(p.191)と記されている。

夢を見る「私」は体を動かすことができず、その様子は次のように描かれている。でもどれだけ力をふりしぼっても私は動けなかった。本当に、指一本動かすこともできなかったのだ。動けないということがはっきりすると、私は急に怖くなった。(中略)私は叫ぼうと思った。でも私には声を出すこともできなかった。舌さえいうことをきかないのだ。私にできるのは、その老人をただじっと見ていることだけだった。(p.191)

作品中のこの夢の描写について、浅利文子(2011)は、その老人が夫の将来の姿であり、精神的自立と行動の自由を表す足に水をかけるという行為は、「妻」の自由を阻害する意味を持つと推測をしている。またリヴィア・モネは、「悪夢に現れる老人の鋭い目のまなざしや水の拷問を、男性のまなざしおよび女性を抑圧し続けている父権制度の力のメタフォリカルな表象と解釈することが可能」だと述べているが、ここで重要なのは、「私」が恐怖の中でも声を出すことができないことだろう。無意識のレベルで作られる夢は、不思議な形に変えられてはいても、彼女の現状をはっきり

と見せているのではないだろうか。「私」は嫌がる行動をとる老人を目の前にし、底知れない無力を感じつつも、ただ耐えるだけで何の行動も起こさないのである。その後、恐怖のあまり、「私」は夢の中で悲鳴をあげる。

私は目を閉じて、これ以上あげられないくらい大きな悲鳴をあげた。でもその悲鳴は外に出なかった。私の舌は空気を震わせることができなかった。私の体の中で悲鳴は音もなく鳴り響いただけだった。その無音の悲鳴は私の体内を抱え巡り、私の心臓は鼓動を止めた（中略）私の細胞の隅々にまで、悲鳴はしみとおった。（p.192）

「私」は今まで目をそらし生きていた生活の恐ろしい側面が見えて、耐えられなくなって叫びをあげる。だが、それは外に出ない。つまり、それは長い間ずっと意識上に抑えていたが、無意識のその夢を通して、やっと届いた彼女の心の底からの声だったのであろう。「私」は心の中で秘めていた無力、孤独、悲しみ、やりきれなさ、恐怖など苦しい気持ちは一気に溢れてきて、それを痛いほど実感できたのである。ほとんど外には出せなかった気持であった。その声は警鐘のように体の中に響き、今の生活はもう耐えられない、何とかしなければならぬと、と呼びかけているのである。その結果、「私」の中で何かが死に、何かが溶けてしまった。」（p.192）その「何か」とは一体どのようなものだったのだろうか。山根由美恵（2022）は、「悪夢によってもたらされたのは、夫の望む妻であろうとする意識の解体である」と述べている。または、桑野加奈子（2017）は、「これは、「私」が後ほど夫への愛や息子への母性愛を失ってしまい、「存在基盤」を捨て去ってしまうことを示唆しているのではないだろうか」と分析する。いずれにせよ、

「私の存在に関わっている多くのものを、根こそぎ理不尽に焼きはらってしまった」（p.192）とあるように、この「響きのない悲鳴」のおかげで彼女は幻想から覚め、現実にある色々な問題に気づくこととなった。

このように夢によって覚醒し、現実を明確にとらえるようになったため、元通りの生活にはもう戻ることができない。この無音の叫びが、彼女を変えてしまったのである。彼女の「覚醒」が「不眠」をもたらすものだった、という点は重要だろう。

### 3. 本当の声が出せない現実

夢を見た「私」が不眠になった結果、今まで見ようとしなかった家庭の現状が鮮明に浮かび上がる。家族から彼女に対しての無関心、夫との関係の軽薄さ、コミュニケ

ーションの少なさ、反復する日々の中で自分を失うことなどである。それに耐えがたくなり、彼女は行動にも移す。しかし、顕著であるのは、ここでも彼女は思っていることを声に出せず、自分の「声」を持っていないということである。この作品は「私」の自立をめぐる物語ではあるものの、その「声」がない限り何も変えられず、全て不首尾に終わるとわかる。

最初に浮き彫りになるのは、夫婦の間の会話の少なさである。二人の間には朝晩の挨拶程度の話しかなく、共通の話題がほとんどない。それ以外は次の二つの会話しかほとんど描かれていない。まずは夫の趣味である音楽についてである。「私」は「音楽を聴くのは嫌いではない」(p.189)が、夫の好んで聞く「ハイドンとモーツァルトの違い」(p.189)についてはわからず、つまりそれほど音楽に詳しくはなく、ただ聞くだけである。夫も違いを分からなくていいと「美しいものは美しい」と言い返すだけである。この趣味の会話からもわかるように、お互いは深く分かり合おうとしないのである。不眠についても、夫に隠しているわけではないが、「病院に行けと言われるだろうから」(p.209)言い出せずにおり、医者に行ったところで問題の解決には至らないと確信している。コミュニケーションの少なさが理解不足を生み、精神的な距離ができ、信頼とは程遠い関係である。このように夫との信頼関係のなさが周りにも不信用を生み、相談できる相手がおらず、孤立した状態がみられる。

覚醒＝不眠が始まってから、彼女はその反復する日々の中で完全に自分を失う前に、何かを変えようと必死である。「機械的に」家事を早く済ますようになり、自分の学校時代からの趣味であった読書に夢中になり、大半の時間を自分に費やすことにする。夫が甘い菓子を食べるのが嫌いで、息子にもほとんど与えないという理由で、彼女は結婚してからチョコレートを食べなくなっていたが、娘時代からの大好物のチョコレートを食べながら『アンナ・カレーニナ』を読み、夜のドライブに行くのが一番の楽しみになる。しかし、夫はそのような変化に全く気づかない。「私」も、チョコレートを食べた後ですぐに匂いを消すために歯磨きをし、読んでいる本を話題にしないし、ドライブの時も夫が眠ったと確認してから、こっそり家を出る。夫が「私」の変化に気づかないのは、「私」は気づかせないようにしているからだともいえる。

こうした「私」のやり方は、夫の仕事のことに関する会話にも表れる。新しい医療器具のメリットとその購入の話をした際、「私」は「歯の垢のことなんか考えたくはなかった。食事中にそんな話を聞きたくないし、それについても深く考えたくない。」

と思うが、それを声には出さない。彼女が口にするのは「必要なものなら買えばいいじゃない。お金のことなら何とかなるわよ。遊びに使うお金じゃないんだもの」(p.202)という台詞である。

妻である「私」は夫の話聞き、表面的には賛同しているようにもみえるが、音楽の話の場合と同様に自分の意見というより、夫が求める建前を言っているばかりなのである。

ギッテ・M・ハンセン(2016)は、「村上の「フィーメール・ナラティブ」の作品群の多くがそうであるように、「眠り」の語り手は自由を手に入れるための最も重要なフェミニスト的手段をもっていない。その手段とは声(ヴォイス)である。」と指摘するが、どの場面を見ても彼女の「声」は本当の自分の声ではない。

どうして「私」は本当の声が出せないのだろうか。そこには、当時の社会の状況が大きく関わっていると考えられる。太田鈴子は、「専業主婦を選んだ女性たちにとっては結婚が人生であり、結婚という到着点にたどり着き、ドアを閉めて中に入り、安住の場所を獲得したのだが、同時に出口も閉ざされてしまった。」と述べた。小説が描かれた1980年代後半には、専業主婦の割合は37%であり、四割近くの女性にとっては、結婚という「永久就職」が一本の道になっていた。幼少期から花嫁修業をし、就職をしても社会勉強と相手が見つかるまでの腰掛とされていた環境で生きていた女性たちは、結婚後は毎日家族のために生きるだけの毎日を送るようになる。

「眠り」の「私」も、このような同世代と同じような道を歩むことになっている。自分を忘れ、家事育児をし、夫の望む「妻」でいるという社会が決めたルールに従わざるをえない。結婚後家庭に入り、夫に養われている以上、家計や夫婦関係に関して文句を言うことは許されず、家父長制の影響の下で自分の母や妻として一つ一つの行動が社会からどのようにみられるかを考えられずにはいられないのである。

ハンセン(2016)は「村上の「フィーメール・ナラティブ」作品では、(中略)女性の主要人物は、しばしば過剰と思えるほど自分の社会的立場、社会における義務に敏感である」と主張する。「眠り」の「私」も夫が求めるような家族のために完璧な妻であるようにしており、それだけでなく、最初は気づいてないながらも社会が作り上げたステレオタイプに自ら従おうとしていると言える。

#### 4. 完全な沈黙

物語の終盤で「私」は「ラジオの音楽を聴きながら、港まで車を走らせる。」(p.221)そこで次のことを考える。

人はこのように変化するのだ、と私は思う。でもその変化は誰にもわからない。誰も気づかない。私にしかわからない。説明をしても彼らにはわからないだろう。彼らは信じようとしなないだろう。そしてもし信じたとしても、私が何を感じているかなんて、絶対に正確にはわからないのだ。自分たちの推論の世界を脅かすものとしてしかとらえないだろう。(p.222)

不眠＝覚醒が「私」の内面に様々な変化をもたらしたものの、それを社会や家族である「彼ら」は理解しようとしてくれないと絶望しており、変人扱いされそうになるから言わないことを決める。ここでも彼女は自分の声を出そうとはしないのである。それから間もないうちに、彼女は男たちに襲われることになる。

黒い影が車の両側に見える。(中略)そして男たちは—その影は私の車を揺さぶり続けている。その揺れはどんどん大きくなってきている。たぶん彼らはこの車をひっくりかえすつもりなのだ。(中略)私はあきらめてシートにもたれ、両手で顔を覆う。そして泣く。私には泣くことしかできない。(p.223)

上記の二人の男によって「私」の人生が一方向的に大きく揺さぶられ、左右され、それに対して私は抵抗できず、声を出すこともできず泣くばかりである。

桑野 (2017)は、その沈黙について「それは自己の意志による沈黙でもあり、また、夫や息子、義母などの他者から強いられた沈黙でもある」と述べる。つまり自分が何も言わないという自分の決意と外からの影響で、「私」は完全な沈黙の状態に陥るといふ救いがたい結末になるのである。

#### おわりに

本論では、村上春樹の短編小説「眠り」の専業主婦描写の分析を行い、この作品が専業主婦という主人公を通して、夫婦関係の変化、家庭の中の孤独、社会からの孤立、日常生活に見る主婦の苦労など、発表当時の日本の女性が直面していた問題を描いていることを明らかにした。「私」の言動の描写に注目すると、夢の世界でも、現実でも主人公の女性が自分の本当の声を出せないという特徴がわかった。つまり、自分の意見や主張があっても、実際に口に出すのは周りから求められるような建前ばかりで、

思っていることを言い出せないでいるのである。「私」は自分の心の叫びを聞き、現状を何とか変えたいと思うが、家族の無関心の前で、自分の思っていることを声に出さないままであるため、彼女の希望は全く気づかれないままである。結局彼女は当時の社会の持つステレオタイプに自ら従い、他者からの影響に縛られて完全な沈黙に陥るのだが、この結末は女性が自分を捨て、家庭のために生きる専業主婦を選ぶことが理想とされていた当時の社会を反映していると言える。そして、彼女の無音の叫びは、彼女が本当の声が出せない弱い存在でいるため、現状を変える力を得られないのである。

## 参考文献

今井清人『村上春樹スタディーズ 2008－2010』若草書房、2011年

内田康（2016）『村上春樹論—神話と物語の構造』端欄国際有限公司

太田鈴子「妻・母を演じる専業主婦—村上春樹『TV ピープル』の女性たち」『学苑』  
—第762号、2004年、3月

桑野加奈子「村上春樹「眠り」論—一九百八十年代の主婦像をめぐって—」岡山大学  
国語研究；発行日. 2017-03-20；巻. 31 巻；出版者. 岡山大学教育学部国語研究会

山根由美恵（2022）『村上春樹＜物語＞の行方—サバルタン・イグザイル・トラウマ—』ひつじ書房

ギッテ・M・ハンセン「村上春樹における女の語り」「シンフォニカ」vol. 2, Autumn、  
2016年

結婚時年齢別初婚婚姻者数の推移坂東眞理子編集『図で見る日本の女性データバンク』  
大蔵省印刷局、1992年

リヴィア・モネ、前川裕訳「テレビ画像的なテレビジュアル退行未来と不眠の肉体  
——村上春樹の短篇小説における視覚性と仮想現実ヴァーチャル・リアリティー」  
（『国文学』第43巻第3号、1998年2月）

「専業主婦の推移」独立行政法人国立女性教育会館・伊藤陽一・杉橋やよい編『男女  
共同参図統計データブック—日本の女性と男性—2003』（2003年、8月 ぎょうせい）

# 現代日本における女性アイドルキャラ構成についての一考察

## - 「神7」と呼ばれるメンバーを対象に -

政治大学日本語文学科

陳 旻暄

### 一、はじめに

AKBグループはAKB48（以下、AKBと略記）として最初に結成され、秋元康のプロデュースにより、2005年12月8日に東京の秋葉原を拠点に活動を開始した。この論文では、なぜAKBグループに焦点を当てるかについて説明する。まず、AKBグループはメンバーが多いことが特徴の一つとしている。日本国内だけで295人、国内外を合わせると587人のメンバーが在籍しています（2021年12月1日時点）。多くのファンに覚えてもらうためには、個々のメンバーが自分自身の特徴を示す必要がある。言い換えると、独自の「キャラ」を持つことが印象を残す上で極めて重要な課題となる。この論文では、「キャラ」とアイドルとの関連性に焦点を当て、AKBグループの代表的なメンバーである神7の一人としてAKBの不動のセンターであった前田敦子と、王道アイドルとして知られる渡辺麻友について分析する。

### 二、女性アイドルのキャラステレオタイプ

特定の職業には一般的なイメージやステレオタイプが存在することがある。例えば、医者は患者の健康や生命に深く関わる仕事をしており、慎重で責任感が強いとの印象が一般的に広く共有されている。同様に、日本の女性アイドルは中学生や高校生からデビューするケースが少なくなく、そのためアイドルは少女のイメージとして認識されがちである。また、アイドルが恋愛することが発覚すると、芸能事務所から処罰されることもある。これにより、アイドルには恋愛の制約があるという認識や、若さのイメージが一般的に広まっているのである。こうした社会的な理解によって、私たちの「キャラ」が形成されていくのである。

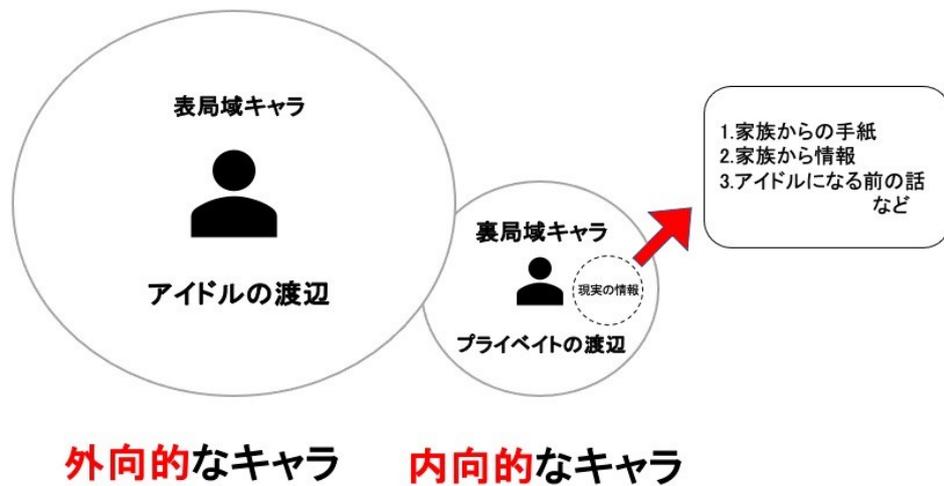
### 三、アイドルのキャラ構成-グループ

アイドルが人の前で表現する「キャラ」は、その個人の性格またはグループ内での役割を指し、アイドルのキャラ構築は一般的に「グループ」および「個人」の2つの側面に分かれる。グループ全体のキャラ設定とは、たとえば、AKBを例にして説明

すると、AKB48 のコンセプトは「会いに行けるアイドル」で、他のアイドルグループと違いのグループを作る同時に「場所」も決め、その「場所」によってグループのイメージも変わっていく。AKB 最初の姉妹グループ SKE、メンバーは東海地方出身がメインで、グループの専用劇場は名古屋市中区の栄であり（以下、栄との略称する）、主に栄で活動している。SKE は初めての姉妹グループであり、最初 AKB にライバルを意識して活動していた。また、2010 年 10 月に AKB グループの第二姉妹グループ NMB48 は、メンバーが主に近畿地方を中心に結成された。関西の人が集まるグループであるため、番組でよく関西弁を使っている。また、関西の名物「ツッコミ」と「ポケ」、グループ全体のパフォーマンス力が上達するために冠番組の『NMB4 げいにん!』において漫才披露もしており、関西出身ではないメンバーもグループのイメージ（もしくはキャラ）に合わせて「ツッコミ」と「ポケ」の練習をしなければならない。最後の HKT、メンバーの組成は SKE や NMB と同じく拠点に近い県で組織され、つまり、九州出身のメンバーがメインであった。九州も関西のように方言があるが、それより種類が多くて関西弁のような少々異なる言い方ではなかった。たとえば、博多弁、熊本弁や鹿児島弁などは言い方の差がかなり大きくて、そのゆえに NMB のように方言をグループの売りとしてほぼ不可能なことであり、他のグループとキャラが被ってしまう危険性がある。その結果、他のグループにはない「フレッシュさ」で HKT のアピールポイントにした。当時デビューした HKT 一期生は 21 名の平均年齢がわずかに 13.8 歳で、今まで結成されたグループ中に史上最年少である。つまり、制作側的には AKB は「正統派アイドル」、SKE は「AKB のライバル」と位置づけられ、NMB は「関西アイドル」で、HKT は「フレッシュアイドル」というポジションを持っている。

#### 四、 AKB のキャラ作り-個人

ここでは、「ドラマツルギー」理論 を用いて、アイドルの個人キャラを分析する。



(図1 渡辺のキャラ分析、筆者作成)

アイドルを例として挙げれば、元AKBの渡辺麻友はアイドルになる前に学校では内向的な子で、人とのコミュニケーションも必要最低限のことしかしなかったが、人の前に踊ったり歌ったりしているアイドルになった。つまり、「キャラ」の概念を用いて渡辺が学校では「内向的なキャラ」で、アイドルになったために「外向的なキャラ」になるのは一つの「キャラ変」、あるいはもう一つの「キャラ」を演じていたと考えられる。

それで上記の例を続けると、アイドルになった渡辺がファンの前にキラキラしているが、裏ではまた内向的な人に戻ったり違いキャラになったりする可能性もある。その現象については、「ドラマツルギー」においては「表局域」と「裏局域」を2つに分類した。「表局域」は公に見られ、不特定の人に向けて演技を行う場で、舞台上のようなものである。「裏局域」は準備をする場で、舞台裏のようなものであり、表局域でのパフォーマンスの準備が行われる空間である。要するには、アイドルの仕事はファンにパフォーマンスを披露することは「表局域」となる。一方、「裏局域」はアイドルが楽屋やパフォーマンスしない時、そのアイドルのプライベートは「裏局域」である。そのため、本論文ではマスコミの空間と「表・裏局域」の概念に基づき、アイドル個人のキャラ構成について分析を行う。

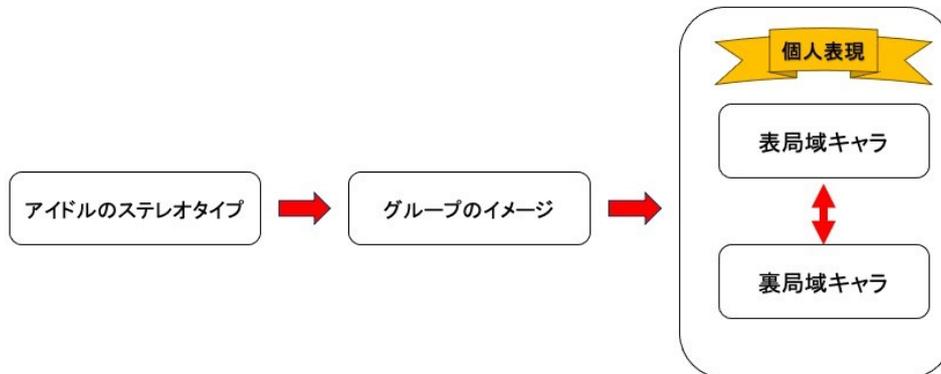


(図2 ファン(受け手)が認識する渡辺のキャラ性、筆者作成)

一方、ファン(受け手)にとっては、渡辺のことを様々なメディアからの情報でしか知ることができず、実際の渡辺の姿を知ることができない。しかし、AKBの番組ではメンバーの家族へのインタビューや生誕祭での家族からの手紙、アイドルになる前の写真や作文などを通じて、ファンは現実の情報を得ることができ、アイドル以外の渡辺についても知ることができる。ただし、どの程度まで放送できるかについてはある程度の考慮があり、現実存在する渡辺のすべてを知ることができない。このように、ファンは現実の渡辺のことを知っているような錯覚を抱くことを感じ、アイドルの「表局域」と「裏局域」が重なり合い、境界が曖昧になることもある。また、表のキャラと裏のキャラが一致しないと「キャラ崩壊」となることもある。

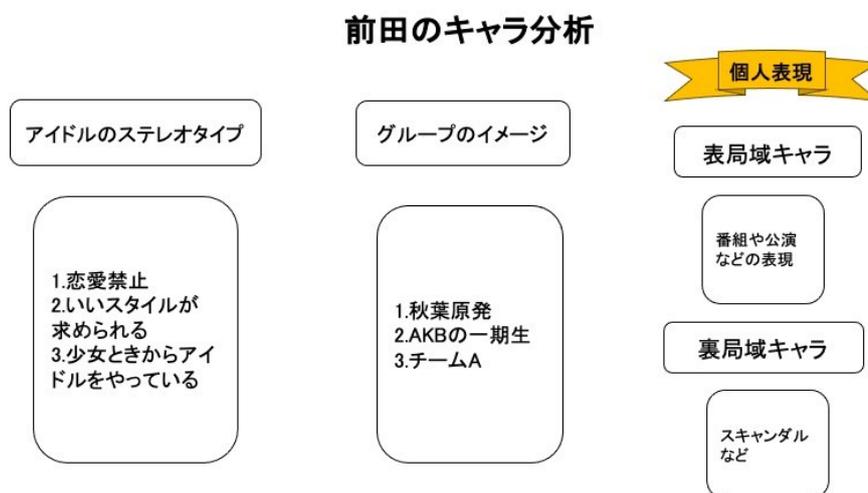
## 五、 アイドルのキャラ分析

前述したように、アイドルのステレオタイプ以外にも、アイドルグループの目標イメージと個人の表現がアイドルのキャラ構成に影響を与える要素となる。要するには、アイドルのキャラ構築図は以下のように表現できる。



(図3 アイドルのキャラ構築図、筆者作成)

たとえば、かつてAKBの絶対エースの前田敦子をこの構築図に入れて説明すると、



(図4 前田キャラの構築図、筆者作成)

そのため、ステレオタイプが恋愛禁止、良いスタイルが求められ、少女からアイドルになるという要素が含まれている。また、彼女が所属するグループは秋葉原がオタクの聖地であるため、秋葉原のイメージも自然に関連づけられる。さらに、一期生は

全グループの先輩であり、チーム A のチームイメージや公演曲は王道アイドルとして認識されている。最後に、前述したように、「ドラマツルギー」においては「表局域」と「裏局域」がある。つまり、前田の個人のキャラ構築はアイドルとしてのパフォーマンスとプライベートの自己表現の二つの側面を持っており、前田のキャラ構築はこれらの要素によって明らかになる。

## 六、まとめ

この論文の結論をまとめると、アイドルという「キャラ」はステレオタイプやグループのイメージキャラ、そして個人キャラと密接に関連していることが明確に示された。個人キャラには「表キャラ」と「裏キャラ」が存在し、パフォーマンスの種類によってキャラの表現も変わっていく。一方、そのキャラにそぐわない行動をすると「キャラ崩壊」に繋がり、これはアイドルとしての脆弱性とも言える。

## 七、参考文献

- 香月孝史（2014）『「アイドル」の読み方：混乱する「語り」を問う』、青弓社
- 水谷英夫（2013）『感情労働とは何か』、信山社
- 植田康孝、木内英太、西条昇、田畑恒平（2015）「インフォメーション(情報)とエンタテインメント(娯楽)の融合「インフォテインメント(Infotainment)」とは」『江戸川大学紀要』、no.25、p.171-184
- 西条昇、木内英太、植田康孝（2016）「アイドルが生息する「現実空間」と「仮想空間」の二重構造 ―「キャラクター」と「偶像」の合致と乖離―」、『江戸川大学紀要』、no.26、p.199-258
- さやわか（2015）『僕たちとアイドルの時代』、星海社

# 日本の東アジア域内戦略的パートナーシップ研究

Jung Chan (Korea University)

## 1. 序論

2023年7月13日、インドネシアのジャカルタで日本とASEANの外相は年末に予定されている首脳会議の内容を調整するための外相会議（PMC）を開いた。同会議で双方は、インド太平洋に対するアセアンの観点（Asean Outlook on the Indo-Pacific, AOIP）が自由で開かれたインド太平洋（Free and Open Indo-Pacific, FOIP）と和合していることを再確認し、地域および国際問題（韓半島非核化、ウクライナ問題など）と東ティモールのアセアン加盟問題など様々な現況を扱った。

さらに注目を集めたのは、年末の首脳会議で20年間停滞してきた両者の戦略的パートナーシップ（Strategic Partnership, SP）を格上げし、包括的（Comprehensive）戦略的パートナーシップを樹立するという締結計画だった。これはアセアンが米国、中国、オーストラリアの3カ国とだけ締結している国交段階で、日本は予定された首脳会議を通じて両国間の関係を格上げし、アセアンとの連係を強化・拡大するという計画だ。韓国も2023年4月11日、アセアンと上記の関係に向けた格上げ計画を韓-アセアン連帯構想（Korea-ASEAN Solidarity Initiative, KASI）の中に編入させ積極的に推進するなど戦略的パートナーシップに基づいた両行為者間の連結性強化努力に拍車をかけている。現在、多くの国はSP概念を活用して他国と連携しており、これを締結したり元の関係から格上げすることを外交的成果として対内的・対外的に広報している。

冷戦終結後、戦略的パートナーシップがなぜ高い拡散傾向を見せたのかについては、グローバル化の進行、国際情勢の変化、同盟が持つ限界、地域安保体制に対する不満など数多くの理由が存在する。しかし、最も核心的な理由はSPが内在している性質に起因する。それはSPは脅威推動的（Threat-driven）ではなく目的推動的（Goal-driven）だという点だ。これを土台にSPは一般的な同盟あるいは安保連合のような形態より少ない費用を要求し、これによってパートナーに多くの独立性と柔軟性を保障するという長所を持っている。

不確実な国際的環境の中でも周辺国と交流し、経済協力と安保分野および特定案件で協力を追求しなければならない状況は存在する。そして、これは自然に一国が他の国と新しい関係を樹立する場合、第3の国に誤解の余地を減らし、放棄と関与のジ

レンマから脱し、親交を追求し、多角的な協力体系を強化させる汎用的な手段に対する需要が高まる結果を招く。現在、戦略的パートナーシップはこれに符合する選択肢として東アジアに域内で急速に採択されている。それなら、実際に戦略的パートナーシップが東アジア域内でどの程度広がっているかを確認してみよう。

現在、戦略的パートナーシップは東アジア内だけで 40 以上締結されている。特に韓国・中国・日本北東アジア 3 国の場合、東南アジア諸国との連結通路としてこれを積極的に活用しており、全体で 50%以上の締結比重を占めているという点が重要だと見える。また、地域を南北に分けた時、北東アジア内部の場合、モンゴルを除いた韓中日 3 国は周辺の安保状況と歴史問題など外交諸般の状況によって関係発展が比較的遅れたり停滞している。東南アジア内部の場合は今や関係が形成され始める胎動期と見ることができるが、その拡散速度が非常に速い。

戦略的パートナーシップは活発に使われているが、該当関係が内在する性質である柔軟性(Flexibility)によって完璧な定義を下しにくい側面がある。柔軟性とは、従来の研究で SP の特性、設立基盤、目的など SP を構成するほとんどすべての要素を説明する時に欠かせない単語である。国家間の多層的協議を示し、扱う範囲が広く非定型的な戦略的パートナーシップの特性上、これは自然な現象と見ることができるが、SP を客観的に理解し、すべての関係に通用する共通の特徴を把握するためには、これは障害要素として作用することもある。

戦略的パートナーシップを包括的には「冷戦終結後に新たに登場した国あるいは国家連合間関係の一形態として環境のリスクや利害関係を共有し、多次元的目標と柔軟な構造を基盤とする」程度で表すことができるだろう。しかし、柔軟な構造を基盤とするだけに、同盟のような伝統的な国家関係が持つ固定的な形態とは異なり、SP はこれを利用する国家ごとに目的とパートナー選定理由が少しずつ異なる。また、SP はその形成過程がトPPERダウンの構造を持ち、国家ごとに集中的に締結された時期が存在するため、該当時期のリーダーシップや指導層がこの関係をどのように認識し活用したのかも理解のために重要だ。したがって、一国の SP を総合的に理解するためには、その形成理由である周辺国際環境と危険認識、パートナー選定に考慮される要素、そしてこれを導く指導者の性向などを一緒に確認する必要がある。

本研究はこれを達成するために以下の 3 つの質問を含んでいる。ただし、今回の発表のために扱う内容は 1 番質問に限定する。

1. 日本の戦略的パートナーシップの形成目的は何だったのか？
2. 日本は戦略的パートナーをどのような基準で選定するのか？
3. 日本の戦略的パートナーシップ外交戦略の限界は何か？

この質問に答えるために、本研究は戦略的パートナーシップの代表的な研究者の一人であるウィルキンス (WILKINS、2012) の見解を主に参照する。ウィルキンスは彼の研究で本稿が提示した各々の質問に対して SP はどのように形成・発展・評価されるかを説明し、その端緒を提示している。最初の質問に彼はミッテルカ (Mytelka,1991)の意見を借用し、SP は国際環境の不確実性に対する対応で形成されると答えている。すなわち、行為者はその不確実性に対応するための能力と柔軟性を高めるために戦略的パートナーシップを形成し、新しい力量を創出することで国際環境の競争要素を減らそうとするということだ。その土台は共通した脅威認識である可能性もあるが、その細部的協力目標はさらに多様になりうると主張し、国家のリーダーシップ自体が形成段階の核心要素だと言及している。

これを整理すれば戦略的パートナーシップの主な目的は「国家のリーダーシップが認識する外部の多様な不確実要素に対する解決および対処能力の確保にあり、その他に細部的な協力目標が共に存在する」ということができる。したがって、日本の戦略的パートナーシップが集中的に締結された時期である安倍晋三元総理の時期を分析し彼、そして日本が何を環境的不確実性と感じたのかそして SP を通じた対処能力確保の努力に何があったのかを確認しようとする。

## 2. 冷戦後に変化していく東アジアの環境

戦略的パートナーシップが形成される必要性をウィルキンスは、国際環境の不確実性に対する対応と言う。行為者が SP を基にした新しい力量を創出することで、国際安保環境の競争要素を緩和しようとするということである。それなら、日本はどのような部分で国際環境の不確実性を感じ、またどうやって域内 SP を通じて国際環境を安定化させようとしたのかを調べなければならない。

日本の戦略的パートナーシップの締結は 90 年代からであったが、初期を除けば多数のパートナーシップの締結や拡大が安倍晋三元総理の在任時代に行われた。安倍晋三は日本の最長寿総理で、現日本の外交目標設定と戦略形成に大きく貢献した人物である。そのような彼が主導したパートナーシップ外交が、どのような部分に焦点

を置いていたのかについて調べてみよう。まず、安倍1期（2006～2007）の場合、短い時期にもかかわらず、非常に高い締結密度を示している。締結履歴を通じて見れば、普通1年以内に域内国あるいは域内秩序関連国と2つ以上の関係を締結する場合もそれほど多くなく、3つ以上の場合は非常に珍しいという点が確認できる。

しかし、安倍1期の場合、在任期間の1年間、インド、オーストラリア、インドネシア、ベトナム、フィリピンと5つの戦略的パートナーシップを樹立した。だとしたら、このように密集した時期、安倍総理と日本がどのような要素によって国際環境を不確実に認識していたのかについて調べなければならない。様々な関連研究や外交文書を見ると、次のような指摘が存在する。

まず、パイル（Pyle、2007）は彼の著書の中で、日本は急激に変化する地域的環境（アジアへの力の移動、中国とインドの経済力の上昇、ナショナリズムの拡散など）に直面しているにもかかわらず、将来の仕組みがどうなるかについて確実な感覚がないと評価している。ウィルキンスも冷戦体制の崩壊後、中国の浮上のような要素が集まり、日本の政策決定者が急激に状況を再評価していると言及しており、日本の外務省もまたパートナーシップを推進する動機として、世界の新しい変化の中心にあるアジア太平洋地域の環境に対応するために言及している。2006年の外交青書を見ると、日本が韓半島と台湾海峡をめぐる周辺環境の不安定性と中国とインドの浮上という国際情勢の新たな要素を注意深く見守っていることも確認できる。

もちろん、この時期にも中国の浮上を多様な対外的不確実性要素の一つと認識する水準から一歩進んで、日本とインドの戦略的パートナーシップ形成の最大の要因が中国に対する対応だと主張した研究も存在するという点を勘案すれば、中国の存在感が当時も大きかったという点は留意する必要があると思う。（Weiwei、2007）上記のように、冷戦後の東アジア国際環境の変化を理由に外部の不確実性が高まっていた日本は、周辺国とSPを締結し始めた。

さらに、該当国家のリーダーシップを基にした戦略的パートナーシップの推進要素を把握しようとした時、安倍総理は日本の普通国家化を推進した人物という点も注目に値する。日本は普通国家化のために二つの外交政策を遂行してきたが、それは①既存の同盟体制に対する確認および再構成、②友好政策の多様化による他国間の相互支持を得ることである。日本の普通国家化を追求した安倍総理は、この二つのうち後者を達成するために新たな外交動力を確保する必要があった。安倍総理はそのた

めの方策として、第1期(06~07年)に5カ国と戦略的パートナーシップを樹立し、外交成果として広報した。このような高い密度の戦略的パートナーシップ締結は安倍政権がこれを核心的な外交手段と見なしたという証拠だが、この活用様相は安倍2期(2012~2020)に入って戦略的に発展する姿を見せている。

安倍政権2期目が始まった2010年代初め、日本の国際環境に対する認識は、00年代半ばに安倍総理が初めて総理に就任した時期と比べると、その不確実性の対象がさらに明確になった。単に冷戦という既存体系の崩壊をもたらす混乱と漠然とした周辺国に対する不安感ではなく、中国という特定の国家が脅威認識の中で大きく位置づけられるようになったのだ。2000年代初頭、日本の中国の台頭に対する懸念が、中国の持続的な経済成長が日中関係の変化をもたらす構造的要因として作用するかもしれないという多少漠然とした懸念であったとすれば、尖閣をめぐる領土紛争の事例からも分かるように、2010年代の日本の対処すべき対中問題は非常に具体的であるだけでなく、即時で戦略的な対応が必要となった。(Lee, 2014)

そのため、安倍総理は単にこれを活用して他国との友好的相互関係を確保するという第1次目標に満足せず、第1次内閣時期の「自由と繁栄の弧」構想及び第4者安全保障対話(QUAD)を第2期の自由で平和なインド太平洋構想(Free and Open Indo-Pacific, FOIP)とQUAD構想の再活性化に結び付け、活用度と差別性を高めた。このような日本のパートナーシップ外交の活用は戦略的な選択と見ることができるが、アジア地域で日本のSPは米国中心の車輪型安全保障体制(hub-and-spoke)を能動的に補完する構造として機能しているためだ。日本のパートナー外交は、このために二つの形で現れる。

### 3. QUAD 構成国を優先した安倍晋三

一つ目はQUAD構想を基盤としたオーストラリア、インドとの特別戦略的パートナーシップ締結による車輪-車輪関係(spoke-to-spoke)強化構造である。安倍総理はこの両国に対し、戦略的パートナーシップで優先的な地位を与えてきた。第1次安倍内閣当時に唱えたQUAD構想を通じて、安倍総理が当時からオーストラリアとインドの東アジア地域の安保秩序への参加可能性を認識していたと見ることができるが、第2次内閣でもFOIPを構想し、インド太平洋(Indo-Pacific)概念を唱えたのが安倍である点もまた、このような部分を改めて示している。そのため、他国と一般的

な戦略的パートナーシップより高い水準の関係を結んでこなかった日本が 2014 年、インドとオーストラリアだけを特別戦略的パートナーシップに格上げすることにしたことは、日本が両対象国の価値を一般的な戦略的パートナーシップの国々より高く見なしていた象徴と見ることができる。

アジア地域に存在する米国の車輪型安全保障体制は、その機能のためにアジアの各車輪に該当する国々が積極的にネットワーク化された地域構造を構成する必要がある。これは車輪型安全保障体制が一見、米国主導の形でヘゲモニー秩序の下、アジア太平洋の同盟体制を強固にしてきたように見えるが、実質的には該当地域の国々が影響力を持っており、その生成と持続に大きな役割を果たしているという点に起因する。米国もこれを認識しており、アジアで二つの目標を達成しようとしている。一つ目は地域的かつ世界的な挑戦に対する負担を対象国に分けることであり、二つ目はワシントンとインド太平洋諸国との関係を制度化しようとすることである。(Parameswaran, 2014) そしてこれに日本が呼応して中国牽制のためにインド、オーストラリアとの関係深化のために努力している。

日本とオーストラリアは 2014 年の特別戦略的パートナーシップ調印声明で、米国のアジア再均衡戦略に向けた積極的な支持と南シナ海問題について公式に言及し、中国牽制に向けた両国の強い意志を再確認した。インドの場合、日本のような民主主義国家の価値を享有し、小多自主意の体制と二国間関係など様々な側面で発展を遂げてはいるが、日本が望むものと全く同じレベルの車輪型安保体制の強化に歩調を合わせてはいないものと見られる。実際、2014 年の東京宣言と 2017 年の FOIP に向けた共同宣言で、全体宣言文の中に中国関連の問題は言及されておらず、現在もインドはヘッジング戦略を維持し、均衡外交を標榜している。

しかし、日本とインドの軍事協力強化協定が 21 世紀に入って増加しており、インドの中国に対する伝統的な認識と中国海軍のインド洋海域進出と海軍訓練頻度の増加、そして一帯一路 (Belt and Road Initiative, BRI) 事業を通じた南アジア諸国と中国の連帯強化は、インドの南アジア地域主導秩序に脅威を与えているため、日本との協力強化の傾向自体は持続的に続くものと見られる。

#### 4. 東南アジア地域との戦略的パートナー外交による影響力拡大

第二の形態は、日本外交の歴史的遺産を活用した東南アジア地域内の戦略的パートナー外交である。日本の対東南アジア外交の歴史は非常に深い。第二次世界大戦後から東南アジア諸国との外交正常化に努め、これを代表する機構であるアセアンと1997年に初めてパートナーシップを共同声明に言及したことを皮切りに、2005年に戦略的パートナーシップを締結し、アセアンを構成する各国ともこれを広く拡張させていった。日本の対東南アジア外交は体系的で、中長期的な戦略の下で遂行されてきて、安倍政権以前の対東南アジア外交は1977年福田総理が歴訪中に発表した福田ドクトリンに代表される。

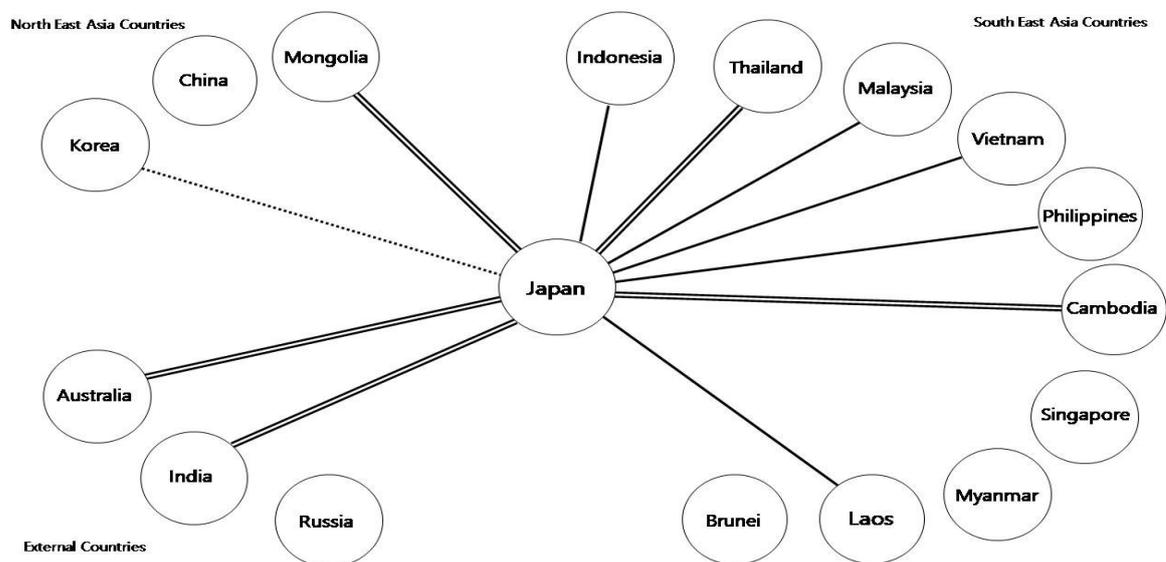
ここで発表された3つの原則は「第一に日本は軍事大国にならない、第二に日本は東南アジアと相互信頼を基盤としたパートナーシップを構築する。第三に、日本はASEANを対等なパートナーとして認識し、ASEANの外延拡大に貢献する。」この三つである。これを基盤にした日本の対アセアン外交は経済協力を深め、ODA 供与を土台に東南アジアの最大支援国として位置づけ、日本の平和外交イメージを東南アジアに植え付けることと同時に東南アジア国民の高い支持を得た。

しかし、安倍内閣の登場後、日本が東南アジアに望むことは少しずつ変化していくが、これは安倍総理が2013年に発表した安倍ドクトリンで明らかになる。安倍ドクトリンは基本的に福田ドクトリンの姿勢を継承しているが、二つの側面で違いが見られる。一つ目は自由、民主主義、基本的人権など普遍的価値を定着させ、これを拡大させるために努力すると明示した点、二つ目は自由で開かれた海洋を公共財としてアセアンと協力し、米国のアジア重視を歓迎するといった点だ。

このような安倍ドクトリンで現れた姿勢は、中国牽制のためのアセアンの地政学的価値を高く見て、これを糾合して安保状況を安定化させようとする事が明らかになると評価されている。(Oh, 2023) 実際、当時安倍総理は記者会見で、中国が国際社会で責任を持って行動することが重要だと示し、牽制の意思を明らかにした。ベトナム、フィリピン、マレーシアとの海上安保協力を積極的な姿勢は東南アジアで日本が役割分担体制を形成しようとする努力であり、自国が構築してきた包括的な域内ネットワークを活用して価値と規範に対するアセアンの選好を変化させようとすることを示している。

## 5. 結論

このように安倍総理のリーダーシップの下、日本で戦略的パートナーシップは活発に使われた。本発表の分析は、戦略的パートナーシップの目的が国際環境の不確実性に対応するためであるという前提に基づいて進められた。安倍第1期当時、脱冷戦期という新しい国際環境と予測し難い未来を構成していた様々な要素は、安倍第2期になって中国という確実な対象に変貌した。このような環境に対応するため、安倍総理はQUADとFOIPのような米国の戦略に積極的に呼応し、周辺国と戦略的パートナーシップを締結していったと考えられる。



参考：日本の戦略的パートナーシップ現況（東アジア）

点線:単純なパートナーシップ、実線:戦略的パートナーシップ、双線:戦略的パートナーシップより上位の関係(2023年 2月)

### 参考資料

권재범(2020), 「중국의 부상과 일본-인도 군사·전략적 관계 강화 : 일본-인도의 대중국 견제 협력 분석」, 『세계지역연구논총』, 제 38집, PP.151-178.

- 권재범(2021), 「중국의 인도양 진출과 인도의 대응 분석: 인도-인도양 연안국 간의 안보·전략적 관계를 중심으로」, 『아태연구』 제 28 집, 국제지역연구원, PP.5-38.
- 서승원(2018). 『근현대 일본의 지정학적 상상력 :야마가타아리토모 - 아베 신조』, 서울: 고려대학교 출판문화원. PP.340-357.
- 이무성(2019), 「유럽연합(EU) 전략적 동반자관계에 대한 연구: 양면성과 개념적 정의」, 『한국유럽학회』, 제 37 집, 유럽연구, PP.63-86.
- 이승주(2014), 「21 세기 일본 외교전략의 변화 보통국가의 변환과 다차원 외교의 대두」, 『한국정치외교사논총』, 제 35 집, 한국정치외교사학회, PP.275-306,
- 정찬, 서승원(2022), 「한중일 3 국의 대 동남아시아 전략적 동반자관계외교 비교 연구: 동맹의 대체재인가, 아니면 보완재인가?」, 『일본연구논총』, 제 55 집, 현대일본학회, PP.9-38.
- 白石 昌也(2014), 『日本の「戦略的パートナーシップ」外交: 全体像の俯瞰』, 東京: 早稲田大学 アジア太平洋研究センター.
- 外務省(2006), 外交青書 (平成 18 年)
- Lynn K. Mytelka(1991), "Strategic Partnerships: States, firms and International Competition," London: Pinter.
- Nadkarni, Vidya(2010), "Strategic Partnerships in Asia: Balancing without Alliances." London: Routledge.
- Parameswaran(2014), "Explaining US strategic partnerships in the Asia-Pacific region: Origins, Developments and Prospects." Contemporary Southeast Asia 36, p. 262-289.
- Pyle, Kenneth B. (2007), "Japan Rising: The Resurgence of Japanese Power and Purpose." New York: Public Affairs.
- Snyder, Glenn H(1984), "The Security Dilemma in Alliance Politics," World Politics 36, p.461-495.

- Teo, Victor(2021), “Japan’s Weapons Transfers to Southeast Asia: Opportunities and Challenges,” ISEAS Yusof Ishak Institute No. 70. p.1-19.
- Trinidad, Dennis(2018), “What Does Strategic Partnerships with ASEAN Mean for Japan’s Foreign Aid?”, *Journal of Asian Security and International Affairs* 5, p.267-294.
- Weiwei, Zhang(2007), “Japan and India: Forging the Strategic and Global Partnership”, *China International Studies* 9(2), p.25-41.
- Wilkins, Thomas(2008), “Russo–Chinese strategic partnership.” *Contemporary Security Policy* 29, p.358-383.
- Wilkins. Thomas(2011), “Japan’s Alliance Diversification: a Comparative Analysis of the Indian and Australian Strategic Partnerships.” *International Relations of the Asia-Pacific* 11, p.115-155.
- Wilkins, Thomas(2019), “Security in Asia Pacific: The Dynamics of Alignment.” Boulder: Lynne Rienner Publishers.
- 张洁(2021). 「东盟中心主义重构与中国: 东盟关系的发展」. □*国际问题研究*□3 期, p.118-135

# 地方自治体のUIJ ターン施策のミスマッチについて

北京外国語大学日本語学院、北京日本学研究中心

孫利冉（202220231041）

キーワード：UIJ ターン；移住施策；ミスマッチ；地方創生

## 1. 研究背景

日本各自治体が人材を地方部に呼び戻すために、次々と政策を打ち出されているが、それらの施策は必ずしも UIJ ターン希望者のニーズとは合致しているのではなく、両者の間にミスマッチが生じる可能性があると思われる。ミスマッチが生じた場合、UIJ ターン希望者のニーズは満たされないし、自治体の施策効果も大幅に低下していく。そこで、両者の間のミスマッチを究明するのが UIJ ターン希望者にとっても、地方部自治体にとっても重要な意味があると思われる。

## 2. 先行研究

小森らは京都府の中山間地域の定住に係る移住者の意向及び受入側の意識にを比較し、移住者にとってはもっとも重要な施策は住宅支援であると考えられたなどの先行研究が挙げられる。

## 3. UIJ ターン希望者のニーズについて

- (1) 都市部と同じような基本生活保障を手に入りたい
- (2) 移住情報をできるだけ多く知りたい
- (3) そこに住んでみたい

## 4. 地方自治体のUIJ ターン移住促進施策現状

- (1) 豊富な現金支援施策
- (2) 新たな情報相談ルート
- (3) 様々な体験事業

## 5. UIJ ターン希望者のニーズと自治体の施策のミスマッチ

### (1) UIJ ターン後の仕事に関するミスマッチ

人々が UIJ ターン後に農業に従事するのが多いと今まで多くの研究が指摘したが、第三産業の急速的な発展に伴い、近年アンケート調査では移住後に農業に従事する回答者が少なかったというのも現状だと言える。現時点では UIJ ターン者は移住後、サービス業など業界で働く人が多いと考えられている。しかし、各自治体地方移住の就職に関する施策を見ると、直接に起業支援金を給付する以外、ほとんどの施策は農業や漁業についての支援施策だ。

### (2) 文化体験活動に関するミスマッチ

現在の体験事業に関する施策ほとんどは自然環境の体験を巡り展開され、各地方自治体自分それぞれの特徴と合わせてイベントや講座などを行う自治体が少ないと言える。UIJ ターン希望者の地方部の文化への興味と施策の単一性の間にミスマッチが生じている。

### (3) 基本生活支援施策に関するミスマッチ

現金支援施策が必要であるが、ほかの基本生活における支援制度も重視すべきだと思われている。地方に移住し、地方部の平均給料は以前に住んでいた都市部より低いのが予想できており、それにもかかわらず、依然として地方部に移住したいのはやはり多くの UIJ ターン希望者にとっては生活環境や生活と仕事間のバランスなどのほうが大切だと言える。

## 6. 終わりに

# 大学院生フォーラム

## 第 2 会場

### zoom 会場 2

zoom ID: 836-0455-2498 (PW331493)

### 対面会場

日研楼 508

# 責任判断に関わる自動詞・他動詞

## —日本語と中国語の比較を中心に—

筑波大学

CHEN YUSHI

### 1、はじめに

責任意識と責任の言語化は、言語によって異なる場合がある。日本語では、責任を認められる事態に他動詞を使い、責任を追及する状況にない場合には自動詞を用いると指摘されている(西光 2010)。しかしながら、責任をどのような状況で認められるか、どのような場面で責任を問題視しないかについては、検討すべき課題であると考えられる。

また、これまでの研究では、責任と自他動詞の相関関係が示され、言語・文化によって責任の範囲及び責任と自他動詞の関係が異なる可能性が指摘されている。しかしながら、具体的に言語・文化によって責任の範囲がどのように異なるか、責任の構成要素と自他動詞の言語化の相関性における違いについては、まだ検討する余地が残されている。

そのため、本研究では、責任意識、日本語自他動詞の表現、及び中国語自他動詞の表現を比較することを通じて、中国語を母語とする日本語学習者にとって、日本語の自他動詞の習得において困難点や問題点を明らかにしたい。

### 2、先行研究

西光(2010)は日本語、英語およびマラーティー語のデータを詳細に検証し、以下の他動性の連続体の仮説を提案した。



西光(2010), p222

日本語では意図的行為と責任のある出来事に他動詞を用いると指摘したが、責任の中身まで立ち入らない。ワイナーの責任帰属モデルが参考になるが、日本語では責任を主観的にとるので、ワイナーの客観的な責任帰属のモデルでは捉えきれないと指摘

された。また、日本語では以下のような原則が働いていると述べている。「1) 責任を認められるものを主語に他動詞を用いる。2) 制御(回避)不可能であっても自分の管理下にあるものに起こったことについては責任を持つべきである。3) 動作主がある場合でも責任を追及する状況にない場合には自動詞を用いる」(p232)。西光(2010)は、文化によって責任の範囲が異なることが明らかにした。しかし、日本語ではいつか責任を追及する状況にないかについてまだ検討する必要がある、他動性が責任にどこまで広がるかも追及すべき課題である。

吉成・他(2010)は日本語・韓国語・マラーティー語の実態調査を実施し、非意図的な出来事の描写において自他動詞表現の使用を検証した。結果では、「非意図的な事態に対する責任意識は、どの言語話者にも共通して見られる。ただし、責任意識の程度は事態を引き起こした原因によって差があり、その差の傾向は言語によって異なる。...事態に対する責任意識が高ければ、その描写に他動詞表現が用いられるという傾向は、言語一般のものではない。3言語の中では、日本語と韓国語にその傾向が見られる(ただし、日本語>韓国語の順に相関の強さは異なっている)が、マラーティー語には責任意識と他動詞使用の相関が見られない」(p187)ということが明らかになった。事態に対する責任意識と他動詞文の使用の関係は言語によって異なることが示されたが、責任意識の判断要因と言語表現の関係がまだ検討する必要がある。

黄(2020)は中国語を母語とする日本語学習者と日本語母語話者を対象に、非意図的な出来事のうち、相手の持ち物に損害が生じた場面での責任意識と回避可能性意識(制御可能性意識)の違いと、自他動詞の選択の関連性について調査した。調査対象者全員は日本滞在経験がなく、中国の大学に通う中国語を母語とする学生 204 名で、一年生 65 名、2 年生 55 名、3 年生 65 名、4 年生 19 名である。また、日本の大学に在籍する日本語母語話者 26 名を比較対象とする。調査方法は質問紙調査であり、質問は吉成他(2010)に基づき、非意図的な出来事における損害が生じた時に持ち主に告げる場面を中心に作成した。場面の説明文は「あなたは友達の家で夕食をご馳走になりました。後片付けを手伝おうとしたとき、下記の原因で、テーブルから皿が落下し、破損しました。その皿はとても高価なもののようなものでした。台所にいた友達に戻ってきました。」ということである。そして、テーブルから皿が落下し、破損したという事態を引き起こした原因として以下の四つを設定した。原因 1:あなたは酔っ払っていた。原因 2:あなたはうっかりしていた。原因 3:あなたは急にめまいがした。原因

4:急に強い地震が起こった。その結果は、まず、事態認識は設定した四つの状況において、CJLとJNSは大きな違いが見られない。しかし、その出来事をどのように言語化するかは、CJLとJNSでは自他動詞の選択傾向が異なっていたことも指摘した。日本語母語話者は責任意識、回避可能性意識の高低にも関わらず、どの状況においても他動詞表現の選択率が高かったのに対し、中国人日本語学習者は責任意識、回避可能性意識が高い場合は他動詞表現が、低い場合は自動詞表現が選択される傾向が見られたと述べた。このように、黄(2020)では、CJLとJNSの責任意識、回避可能性と自他動詞選択の関係における相違点を明らかにした。

Weiner(1995)は人為的原因、制御可能な原因および責任を軽減する理由が責任の判断における重要な要素であると指摘している。以下図1に示している。

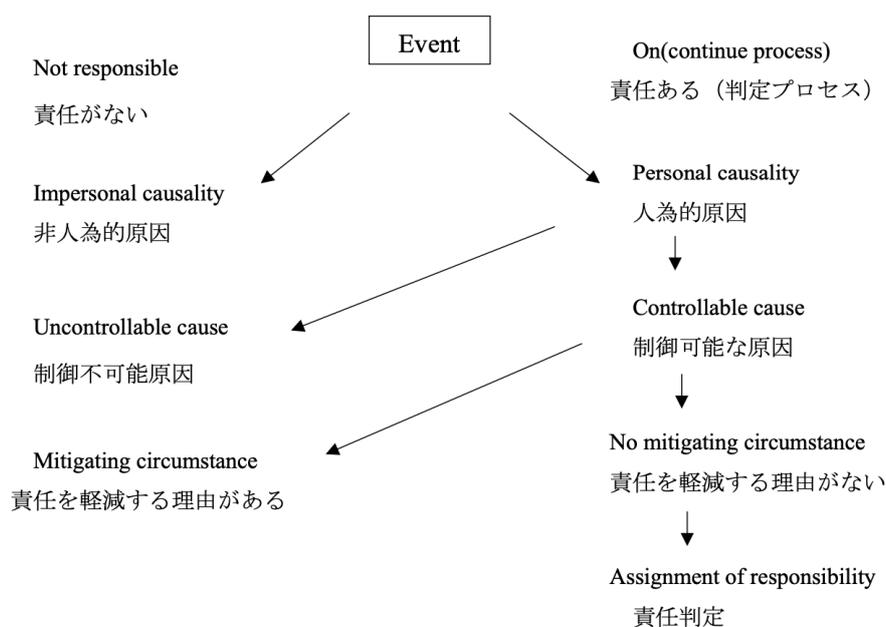


図1 責任判定プロセス (Weiner1995, p12)

Weiner(1995)によれば、責任を構成する重要な要因が明らかになった。しかし、各要因をどの程度含めるべきかは文化によって異なる可能性があるため、文化間の違いを明らかにする必要がある。

### 3、研究課題

RQ1: 日本語母語話者と中国語を母語とする日本語学習者は、どのような状況で責任をどこまで追及するか、またその際にどのような意識が影響するかについて、何らかの違いがあるのか。

RQ2: 日本語母語話者は、責任意識に基づいて自他動詞をどのように使用しているか。また、中国語を母語とする日本語学習者と比較し、どのような違いが見られるか。

RQ3: 中国語と日本語における責任の範囲が異なる可能性があるが、その際にどのような自他動詞の使い分けが存在しているか。また、中国語を母語とする日本語学習者が自他動詞の習得に困難さを抱える可能性はどのようなものであるか。

#### 4、研究方法

調査対象者：中国語を母語とする日本語学習者(50名)、日本語母語話者(50名)、中国語母語話者(50名)。

調査手順：吉成・他(2010)に参照し、Weiner(1995)の定義に従い、言語表現と場面意識に関する質問紙調査を設計し、実施する。具体的な案は以下に示す。

(中国語を母語とする日本語学習者と日本語母語話者を対象に)

枠内に示されている文章と漫画をよく読み、その状況を鮮明に思い浮かべてください。そして、起こった出来事に対する説明を、話し言葉で自由に記述してください。また、各質問項目に対し、あなたの考えに最も近い数字に○印を付けてください。

「あなたは友達 G の家で夕食をごちそうになりました。後片付けの手伝いをしようと立ちあがった時、○○のために、足がテーブルにぶつかり、皿が落下し、破損しました。そのお皿はとても高価なものです。外出していた友達 G が戻ってきました」

お皿が割れるという事態を引き起こす原因(下線部)として、

場面①自発事態：お皿が老化したため、破損しました。

場面②非人為的事態(Weiner1995,p6:impersonal causality):急に地震が起こったため、皿が落下し、破損しました。

場面③制御不可能(Weiner1995,p7:the cause is located within the person but can not be controlled):急にめまいがしたために、友達 A にぶつかり、友達 A の足がテーブルにぶつかり、皿が落下し、破損しました。

場面④責任を軽減する理由(Weiner1995,p11:that the crash was intentional to prevent a more serious accident): 火花を散らしている危険な電源コードに気づきました。気付いていない友達 A が踏み上げそうになった時に、避けさせるために押した。そのため、友達 A の足がテーブルにぶつかり、友達 A の手で持っている皿が落下し、破損しました。

(以上の各場面のイラストを作り、説明文と同時に見せる。イラストは場面の各部分によっていくつのコマを分ける。)

(1) お皿の破損という事態が起こる際に外出していた友達 G に、理由を述べながら、皿の破損について説明してください。 →RQ2

場面①「  
場面②  
「  
場面③  
「  
場面④  
「

(2-1) (場面①②③④) 皿の破損は、あなたに責任があると思いますか。

→RQ1

場面①：責任がない 責任がある

1 — 2 — 3 — 4 — 5 — 6 — 7

場面②：責任がない 責任がある

1 — 2 — 3 — 4 — 5 — 6 — 7

場面③：責任がない 責任がある

1 — 2 — 3 — 4 — 5 — 6 — 7

場面④：責任がない

責任がある

1 — 2 — 3 — 4 — 5 — 6 — 7

(2-2) (場面①②③④) 皿の破損は、あなたにどの部分まで責任があると思いますか。

場面①：a.イラスト1まで b. イラスト2まで c.イラスト3まで d.イラスト4まで

場面②：a.イラスト1まで b. イラスト2まで c.イラスト3まで d.イラスト4まで

場面③：a.イラスト1まで b. イラスト2まで c.イラスト3まで d.イラスト4まで

場面④：a.イラスト1まで b. イラスト2まで c.イラスト3まで d.イラスト4まで

(3) 場面①：あなたには、お皿の破損が自発的であると思いますか。 →RQ1

自発的ではない

自発的

1 — 2 — 3 — 4 — 5 — 6 — 7

場面②：あなたには、お皿の破損が人為的であると思いますか。

人為的ではない

人為的

1 — 2 — 3 — 4 — 5 — 6 — 7

場面③：あなたには、お皿の破損を避けることができましたと思いますか。

避けられなかった

避けられた

1 — 2 — 3 — 4 — 5 — 6 — 7

場面④：あなたには、お皿の破損に対して責任を軽減することができると思いますか。

責任を軽減することができない

責任を軽減することができる

る

1 — 2 — 3 — 4 — 5 — 6 — 7

(中国語母語話者を対象に) 同様の調査を中国語に翻訳し、実施する。 →RQ3

请仔细阅读框内的文字和图画，并想象情境。然后，按要求用语言自由描述所发生事件。此外，在每个问题选项中圈出最接近您想法的选项。

「你在朋友 G 家吃饭。饭后帮忙收拾正要起身时，因为○○、脚撞到了桌子、碗掉落下来、破碎了。这个碗价格很贵。此时朋友外出的朋友 G 回来了」

### 主な参考文献

西光義弘(2010)「第 8 章他動性は連続体か?」西光義弘・プラシヤント・パルデシ  
(編)『自動詞・他動詞の対照』,くろしお出版,pp211-234.

吉成祐子・プラシヤント・パルデシ・鄭聖汝(2010)「非意図的な出来事における他動詞使用と責任意識-日本語・韓国語・マラーティー語の実態調査を通じて」岸本秀樹(編)『ことばの対照』くろしお出版,pp175-189.

Weiner, B. (1995) Judgments of responsibility . New York: The Guilford Press.

## 語種の異なる類義語の意味的特徴について - 「健康な・健やかな・ヘルシーな」の用例分析を中心に-

朴胤宣(高麗大学)

### 1. はじめに

日本語は「健康・健やか・ヘルシー」のように、語種の異なる類義語ペアが多く存在する。日本語母語話者(以下、母語話者)は意味が類似した和語や漢語、外来語のペアをどのように使い分けているのであろうか。

母語話者であれば、場面や状況によって何らかのルールを持って類義語を使い分けていると思われるが、日本語学習者(以下、学習者)が類義語間に存在する意味境界を感じ取るのはきわめて難解である上、教育現場でも語彙指導における類義語間の微妙な違いを説明するのは困難であると指摘している(水口、2002)。特に、現代社会では外来語の使用も増加しつつ、学習者にとって語彙の学習がより複雑になったことから、外来語を含む類義語ペアに注目して検討する必要があると考えられる。

一般的に学習者は知らない単語に遭遇したら、辞書を引く場合が多い。しかし、辞書は編集者の主観的な内省に依存している傾向が強く(姜、2014)、日本語辞書の説明だけでは実際日常生活でどのように使われているのかは把握しにくい。

例えば、辞書に「健やか・ヘルシー」の説明として「健康」という単語が繰り返して記述され、「ヘルシー」の場合は、「健康的なさま・健康に関するさま」と説明が付加されてはいるため、あまりにも抽象的であり、辞書の説明だけでは理解しにくい部分がある。辞書の説明だけでは限界があるため、各々の類義語が持つ意味の特徴を把握するためには実際に使われる環境での使用実態に注目する必要があると思われる。

本研究では語種の異なる「健康な・健やかな・ヘルシーな」を取り上げ、コーパスに基づき共起単語を抽出し、各々の用例の分析から各語の意味的な特徴を検討することを目的とする。

### 2. 先行研究

日本語研究に関する様々なコーパスツールの登場と共に、日本語の類義語の違いをコーパスを用いて検討しようとする研究が増えてきている(姜、2014、2017、2019；村中、2015；朴、2022)。

姜 (2014 ; 2017; 2019)は現代日本語書き言葉均衡コーパスを用い、「取り消し・キャンセル・解約」「特徴・特色」「ルール・規則」などの類義語について、使用領域、共起語の特徴について分析を行った。また、村中(2015)は「グレー」と「灰色」の外來語と和語の類義語ペアを用いて、コーパスのレジスター別の出現割合を調べ、どのような意味・用法で使われているのかを調べている。朴(2016)も BCCWJ を用いて外來語と漢語のペアである「アクセス」と「接続」を対象として、前項にくる単語を中心に各語の特徴についてまとめている。

このように、類義語の研究においてコーパスの活用は類義語と周辺語の基礎調査で効率的な手法であり、多様な単語を対象に用例調査が行われている。

特に、コーパスには日常に使われる母語話者の言語習慣が反映されているため、自然な日本語をそのまま観察できること、また、文中でどのような単語とよく使われるのかコロケーション調査により、ある単語の使用パターンについての客観的なデータを得られるため、類義語の相違点を検討するには基礎的な研究方法の一つとして提示されている(姜、2017)。

今まで、本研究で扱う「健康な・健やかな・ヘルシーな」を直接的に対象とした研究は管見の限り周(2014)が行った母語話者の認識調査研究のみである。

周(2014)の研究は、漢語、和語、外來語ごとに母語話者の認識に差がみられること、母語話者が語彙の属性を考慮し、場面によって語種を選択しようとする意識を持つことは把握できたが、各語が実際の文中でどう使われているかの使用実態の詳細については明らかにされていない現状である。

### 3. 研究方法

#### 3.1 分析資料

日常生活に使われる多様な言語使用をコーパスを用いて効率的に検討できるということから、本研究ではコーパスを活用して調査行う。

「健康・健やか・ヘルシー」の場合、基本形は名詞であるが、辞書の例に主にナ形容詞の形を用いられる場合が多いことに基づき、「ナ形容詞形+名詞」のパターンに焦点を当ててコーパスから用例を抽出し、各類義語における特徴について検討する。分析資料は主に形容詞研究用の言語データベースである「Web データに基づく形容詞用例データベース」(以下、形容詞 web DB)を活用するが、使用実態及びより多様

な用例を提示するため、「NINJAL-LWP for BCCWJ」(以下、NLB)も共に活用し用例を抽出する。NLB の場合、使用頻度が低い用例は各語の特徴が反映されていない可能性が高いため、その使用が3以上になる場合のみを分析対象とした。

### 3.2 分析方法及び範囲

形容詞 web DB と NLB の検索ツールを用いて「健康な・健やかな・ヘルシーな」3語の使用様相について調査を行う。前述に言及した「ナ形容詞形+名詞」の使用パターンから特徴的なコロケーションを抽出し、「健康な・健やかな・ヘルシーな」と共起しやすい名詞に基づき、分類語彙表(2004)を参考に<表1>のように大きく5つ、細部的に8つの分類基準を設けた。

以下の分類から語種による共起語を調べ用例に基づき、類義語の意味的特徴について分析する。

<表1> 分類語彙表における意味分類と例

意味分類		
人間活動の主体	ヒト	例) 人、男性、成人、人間、社会
人間活動	心理	例) 心、感じ、気分
	行為	例) 眠り、暮らし、生活
抽象的關係	時間	例) 毎日、年、未来
	こと	例) 状態、こと
自然物及び自然現象	身体・生物	例) 体、皮膚、動物、植物
	身体・生物の状態	例) 発育、成長
生産物および用具	もの	例) 料理、食品、鍋

## 4. 結果及び分析

コーパスの用例を用いて「健康な・健やかな・ヘルシーな」とよく共起する名詞の出現様相と用例を提示し、各語の語種による相違について調べる。本研究では、形容詞 web DB と NLB ツールの「健康な・健やかな・ヘルシーな+名詞」の使用パターンから上位10位までの共起語からの用例を提示する。

### 4.1. 「健康な・健やかな・ヘルシーな」の使用様相

コーパスでみられる「健康な・健やかな・ヘルシーな」の出現様相を<表2>に示す。

<表 2> コーパスにおける「健康な・健やかな・ヘルシーな+名詞」の分類別出現件数

意味分類		健康な	健やかな	ヘルシーな
人間活動の主体	ヒト	271(32.3%)	19(3.6%)	8(2.4%)
人間活動	心理	19 (2.3%)	32(6.2%)	17(5.1%)
	行為	94(11.2%)	56(10.9%)	45(13.5%)
抽象的關係	時間	43(5.1%)	35(6.8%)	3(0.9%)
	こと	162(19.3%)	64(12.3%)	33(9.9%)
自然物及び自然現象	身体・生物	223(26.7%)	73(14.0%)	18(5.4%)
	身体・生物の状態	26(3.1%)	240(46.2%)	0
生産物および用具	もの	0	0	208(62.8%)
合計		838 (100%)	519(100%)	332(100%)

<表 2>の結果から、「健康な・健やかな・ヘルシーな」の使用上の特徴についてまとめる。まず、3語で多く差がみられたのは、用例が0件である「身体・生物の状態」「もの」である。また、「身体・生物の状態」に関する名詞は「健康な」や「健やかな」には用いられるが、「ヘルシーな」には使われないことが分かる。その中でも「健やか」における使用がかなり多いことが目立つ。

「もの」は主に「ヘルシーな」のみと共起しやすく、「ある対象をよくするもの」に関連する用例が多くみられる。つまり、「ヘルシーな」は「健康な」「健やかな」より共起語の数も少なく、使用領域にも制限があると思われる。

一方、「健康な」は人間活動の主体の「ヒト」が来る場合が最も多く、「健康な人」「健康な女性」「健康な成人」など用例が一般的である。「健康な」は「ヒト」「身体・生物」などの人間との関わる語彙との共起が多いが、3語の中で出現件数が最も多く、多様な名詞と共起できることから、幅広い使用領域を持つ単語だと推察する。和語である「健やか」の場合、一見「健康な」と同様に「ある対象の良い状態」という意味に制限されているのではないかと思われるが、その点については4.2で用例を参考に検証してみたい。

#### 4.2. 「健康な・健やかな・ヘルシーな」の意味的特徴

「健康な・健やかな・ヘルシーな+名詞」と共起語の特徴を確認したが、ここでは名詞と共起した際に生じる意味について用例を確認し、その相違について検討する。「健康な・健やかな・ヘルシーな」と共起しやすい名詞のうち、上位 10 位の名詞を<表 3>に示す。

<表 3> 「健康な・健やかな・ヘルシーな」と共起する名詞(上位 10 位)

意味分類		健康な	健やかな	ヘルシーな
人間活動の主体	ヒト	人(181)	-	-
人間活動	精神	心(81)	心(11)	感じ
	行為	生活 (47)	生活(38) 暮らし(12)	生活(14)
抽象的關係	時間	-	毎日(17)	-
	こと	状態(31)方(24)	-	スタイル(8)
自然物及び自然現象	身体・生物	体 (65) 歯 (35) 身体 (30) 髪 (26) 肌(19)	体(27) 肌(18) 髪(10)	-
	身体・生物の状態	-	成長 (211) 発達 (14) 育ち (10)	-
生産物および用具	もの	-	-	料理(54)メニュー(22)食事(18)食品(10)果実(10)レシピ(10)菓子(8)

<表 3>の調査結果によると「健康な」は主に「人」など、人間そのものを表す場合や、「体」「歯」「髪」のように、人間の身体一部に関する用例が多い傾向が見られる。基本的に「人や体の病気のない状態」を表すために使われる場合が圧倒的に多い。

- (1) どうみても健康な人たちが座り、老人には譲らない。 (goo)
- (2) 健康な人にはどんな悩みがありますか？(Yahoo!知恵袋, 2005, メンタルヘルス)
- (3) 健康な歯で、しっかりと食事や会話できている。 (たなか歯科クリニック)

例(1)と(2)の「健康な人」は、「体が丈夫な人」を指し、ある人の体の状態を示している。また、例(3)は人間の身体の一部である「歯」が、上手く食事ができる良い状態であることを意味している。

「人間の活動」に関わる「生活」「心」も用例でよく見られたが、この場合も例(4)、(5)のように、「人が病気のない状態を保つ」という一般的なことを表すために用いられていると考えられる。

(4) 健康な生活を送るためのコツや方法を紹介します。 (Fashionabsurd)

(5) 睡眠は、健康な生活に欠かせないものです。 (広報くさつ, 2008, 滋賀県)

このように、提示された用例からみると「健康な」は単に人や生物の身体状態が良いこと、問題のない状況を端的に限られて用いられる場合が多いと推測される。

一方、「健やかな」は「健康な」と同様に「生活」や「体」「肌」など、人間の「行為」「身体・生物」に相当する同様の例がみられるが、用例を確認すると少し相違点がある。

(6) 子どもたちの健やかな成長のためには家庭・学校・地域社会において、たゆみない取り組みが必要です。(広報とまこまい, 2008, 北海道)

「健やかな」は、特に、例(6)のように子供の身体の発達に関する用例がよく用いられている。しかし、「健康な」と同様、単純に子供の体の良さを表す以外にも、異なる意味も受けられる。基本的に子供の体に問題なく、丈夫であることが感じられるが、子供の「健やかな成長」には、元気で活力のある若い子の様相も含まれていると推察できる。

(7) 手軽に飲める美味しいお茶で、健やかな毎日をサポート  
(excite.co.jp/news)

(8) トイレには、人間が清潔で健やかな生活をおくるための秘密がたくさん隠されている！ (honto.jp)

(9) まわりの人びとや社会との適切な関係を維持しながら、自己実現をめざしていくとき、健やかな生活が送れるのです。 (現代保健体育, 2006, 高)

例えば、例(7)-(9)の場合、ただ「体が良い毎日・生活」だけのことで解釈するより、快適で、気分の良いという感情的・かつ心理的な特徴が含まれていると思われる。この例から「健康な毎日」「健康な生活」に言い換えてみるとしよう。非文とは言えないが、この場合、頭に浮かぶイメージは「体・身体に良い」という印象が強いと思われる。

この点を踏まえると、同じ類義語ではあるが、「健やかな」には何らかの主体の心理的・感情的な性質が込められている可能性が窺える。

これに対して、「ヘルシーな」の場合、「健康な」や「健やかな」と異なり、人や身体が主体となる用例は確認できない。主に、「料理」や「食事」「メニュー」など「体の状態をよくするための手段や食べ物」と関わる意味としての用例がよくみられる。

(10) バーでこれだけヘルシーな料理が食べられるところはまずないだろう。  
(medic-web)

(11) 朝食がサラダメインの様なヘルシーな食事でした。  
(travel.rakuten)

例(10)、(11)は全て「体を変化させる」「体の状態を良くするもの」として、食べ物を指す用例である。この部分が、「健康な」と「健やかな」との大きな差で、「健康な料理」「健やかな料理」と入れ替えた場合、違和感を感じさせる理由だと思われる。つまり、「ヘルシーな」は無情物が主体になる場合によく使われると思われる。

「ヘルシーな」の場合、体やある生物の状態を良くするための、目で確認できる「もの」との用例が一般的であり、人や生物のある状態の良さと直接関わる用例は極めて少ない。

また、例(12)、(13)の「生活」は前述の「健康な」「健やかな」にもみられる用例で、3語共に僅かな使用例が確認できた。

(12) 明日からヘルシーな生活に改めます(Yahoo!ブログ, 2008, グルメ、ドリンク)

(13)ヘルシーな生活でスリム&ビューティを目指す女性に向けた最新情報&実用情報雑誌。(shop.gakken)

推測の段階であるが、「ヘルシーな生活」の場合は、「体を良い状態にさせる」「体の機能を向上させる」という外部の要因による一時的な変化をイメージできることを想定する傾向が強いと考えられる。一方、例(13)の場合は、「スリム&ビューティ」という外来語が文中にあるため、自然に外来語である「ヘルシーな」が用いられた可能性も窺える。

## 5. 終わりに

本研究では、コーパスを用いて「健康な・健やかな・ヘルシーな」を対象に各語と共起しやすい名詞がくる場合の用例を通してその相違について検討した。

その結果、「健康な」は単に「対象の状態が良い」こと、問題のない状況を端的な場合に限って用いられる場合が多く、「健やかな」は「健康な」と同様に単純に対象の良い状態だけを表す意味が根底にあるが、中には主体の「心理的・感情的」な性質が込められている可能性があることが窺えた。

一方、「ヘルシーな」は「体の状態を良くするもの」という意味が基盤にあるものの、「健康な」「健やかな」と異なり、外部の要因による変化をイメージできることを想定する傾向が強いと推察される。

本研究の用例分析からみられる「健康な・健やかな・ヘルシーな」の意味的特徴から相違点をまとめると<表 4>のようになる。

<表 4>用例からみる「健康な・健やかな・ヘルシーな」の特徴

	健康な	健やかな	ヘルシーな
主な対象	特定の人物・対象		無情物
結合する単語の主な意味領域	ヒト	身体・生物の状態	もの
意味の特徴	一般的・固定的	複合的・感情的・心理的	変化性・イメージ性

今回の用例調査によって、「健康な・健やかな・ヘルシーな」は類義語同士であっても各々特定の単語との結合が強く、結合する単語の性質も異なってくること、また、逆に同様な共起語を持つ場合であっても、その文中に現れる意味は語種によって違いが生じる可能性を確認した。

今後は、より多様な類義語を用いて語種による違いを探りつつ、本研究の結果に基づき、実際に母語話者を対象としたアンケート調査を行い、語種による使用様相の異なりを検証してみたい。さらに、学習者を対象に同様な調査を行い、類義語の適切な学習方法について工夫する必要があると思われる。

### 【参考文献】

강경완(2014) 「균형코퍼스를 이용한 유의어 분석-取り消し・キャンセル・解約를 예로-」 『일본어문학』 65 집, 일본어문학회, pp.1-20.

강경완(2019) 단어사용에 나타난 어법기술의 방법 -「ルール」「規則」를 예로- 『日語日文學研究』 111 집, 한국일어일문학회, pp.3-20.

박노순(2022) 「한자어 외래어 페어의 유의어 분석 -接続・アクセス를 중심으로-」 『日本語文學』 第 96 輯, 韓国日本語文学会, pp.77-96.

姜炅完(2017) 「コーパスを用いた語法研究の一例-「特徴」「特色」の比較-」 『日本言語文化』 第 41 輯, 韓国日本言語文化学会, pp.75-94.

周慶玲(2014) 「語種による類義語使用の特徴-大学生に対する調査に基づいて」 『静岡産業大学情報学部研究紀要』 第 16 集, 静岡産業大学情報学部, pp.33-44.

水口里香(2002) 「類義語の使い分けにおけるメタ言語知識の役割」 『日本文化学報』 第 14 輯, 韓国日本文化学会, pp.139-152.

村中淑子(2015) 「グレー」と「灰色」について-外来語と和語の類義語ペアの使い分け事例として- 『現象と秩序』 3 号, 現象と秩序企画編集室, pp.57-68.

### 【用例出典】

国立国語研究所(2004) 「国立国語研究所資料集 14 『分類語彙表-増補改訂版』」

国立国語研究所 「Web データに基づく形容詞用例データベース」 (<https://csd.ninjal.ac.jp/adj/index.php>)

国立国語研究所 NINJAL-LWP for BCCWJ(NLB) (<http://nlb.ninjal.ac.jp>)

## ラシイ文における推論過程

高麗大学 日本語学・教育

金世利

### 1. はじめに

三宅(1994:22)は、次の(1)に対し、ラシイ<sup>22</sup>がいきなり単文で現れたとしても、母語話者の内省で、その客観性の度合いへの判断が何らかの形で想定できるとしている。この際の客観性は点線部の証拠によって支えられており、先行文脈にその証拠が有標的に言明されていると述べる。

(1) 朝の電車の中で、飴玉をしゃぶる男たちが増えているのだ。昼過ぎの街頭でも、あるいは夜のタクシーの中でも、飴をなめている人々がいる。どうやら飴が大はやりの世の中らしい。(朝日)

(三宅, 1994:22)

しかし(2)に対しても、母語話者の内省だけで、客観性の高い形式としてみなすことができるのだろうか。

(2) 今日突然ほくろが手のひらにできていました。(中略)手のひらにほくろがある人はお金に恵まれるらしいです。宝くじとか買ってみては?  
(BCCWJ : 2005, Yahoo!知恵袋)

(1) は、証拠性判断として分類され、高い客観性の度合いで文が成立している。それに対し(2)の場合、根拠の不在や論理の飛躍にもかかわらず、文が成立している。

(2) のようなラシイ文が成立する 要因は何か。もし話者の主観性が一因であるとするれば、それは文における推論過程を辿るのではないのだろうか。そこで本研究では、母語話者の内省による推論ではなく、ラシイ文の成立過程に注目し、4つの推論類型から話者の主観性と文の成立の関係について考察する。

### 2. 先行研究

<sup>22</sup> 北原(1981:141)によると、ラシイは(1)「接尾語」と(2)「助動詞」としての役割を果たすと記述している。本研究は、文の成立に注目しているため、後者の「助動詞」のラシイを考察の対象に入れ、「接尾語」のラシイは対象外にする。

(1) あの男はとても学生らしい。(北原, 1981:141)

(2) 向こうから来る男はどうも学生らしい。(北原, 1981:141)

三宅(1994)では、文脈における証拠により推論が行われ、ラシイ文が導かれると述べている。この際の推論とは、母語話者の内省による判断を指すものであり、推論過程を経て証拠の認識から命題の導出がなされているわけではない。そのうえ、推論は、認識的モダリティにおいて中核となる概念であるが、未だその概念について十分な議論がなされていない。推論過程を証明することは、「直接経験・間接経験」「客観・主観」「証拠の有無」などの対立関係だけでは、成立の内実がすべて説明できないような文に対し、新たな分析の糸口となろう。

このような問題意識を踏まえ、金世利(2023)では、客観性の度合いが高いとされるハズダ文を対象とし、4つの推論類型と話者の主観性との関係について考察した。推論類型と話者の主観性との相関関係について考察した。本研究も同様に、ラシイ文の成立過程を辿ることで、話者の主観性における内実の分析を目指す。これは、認識的モダリティ(ダロウ・ヨウダ・ラシイ・ハズダ・シソウダなど)が持つ連続性の概念を、より具体的に説明できるという点で意義があり、それらの諸形式の全体像を把握するため先行すべき作業ともいえる。

### 3. 分析対象および方法

金世利(2023)と同様の枠でラシイ文の推論過程を検討するが、調査と分析において、より詳細な手順や分類基準が求められる。まず、『現代日本語書き言葉均衡コーパス(以下、BCCWJ)』(177件)と『日本語日常会話コーパス(以下、CEJC)』(76件)のコアデータに対し、ラシイに前節する語の頻度を品詞とレジスター別に分け、ピボットテーブルで整理する。これは、効率よく前後の文脈を把握するため行う作業である。

分析方法の4つの推論類型に対しては、以下のように下位分類ができる。それは、演繹(一般大前提・特殊大前提)、帰納(規則の導出・統計的一般化)、類比(共通点・相違点)、仮説(結果推量・原因追究)推論に当たるものである。これらの推論類型は、<表1>のように区分されてはいるものの、必ずしもその切れ目が明らかで断続的なものでなく、各項目は相互に関係性を持って全体的に連続的な性質を見せる。例えば、③類比推論の場合、帰納(的)推論とも呼ばれるほど、その推論構造が類似しているため、カテゴリーの線引きが難しく、さらなる検討が必要である。

<表1> 4つの推論類型とその下位分類

①演繹推論 (deduction)		②帰納推論 (induction)		③帰納(的)・類比推論 (analogy)		④仮説推論 (abduction)	
①—1	①—2	②—1	②—2	③—1	③—2	④—1	④—2

一般知識の大前提	特殊な大前提	規則の導出 (枚挙型)	統計的 一般化 (投射法)	共通点	相違点	結果推量	原因推量
						(互いに逆方向性を見せる)	

\*高木・荒川(2022)、福澤(2017)、野矢(2020)などを踏まえ再構成したもの

また、「演繹推論(①—2：大前提が特殊な命題である場合)」と「仮説推論(④—2：原因推量の方向性を持つ)」は、分析方法をより具体化するため、本研究が提案している下位項目である。紙幅の都合上、推論類型に関する詳しい記述は割愛するが、次節でコアデータから抽出した用例の一部を紹介し、それと共に理論的な説明を付け加えることにする。<sup>23</sup>

#### 4. 4つの推論類型から見たラシイ文の成立

##### 4.1. 演繹推論(①—2)：大前提が特殊な命題である場合

演繹推論は、一般的・普遍的な「前提」から、より個別的な「結論」を得る推論の方法である(高木・荒川, 2022:66)。演繹推論(①—1)における大前提の場合、「すべての生物は死ぬ」「春になれば桜が咲く」のような一般知識が挙げられる。しかし次の(2)は、演繹推論(①—2)に当たる例として、その大前提が特殊な命題であることから、主観的なラシイ文として解釈できる。

(2) 今日突然ほくろが手のひらにできていました。(中略) 手のひらにほくろがある人はお金に恵まれるらしいです。宝くじとか買ってみては？

(BCCWJ : 2005, Yahoo!知恵袋)

(2)	大前提	手のひらにほくろがあると、お金に恵まれる
	事例	今日突然ほくろが手のひらにできている
	結論	ゆえに、私はお金に恵まれる

(2)の大前提「手のひらにほくろがあると、お金に恵まれる」は、一般化した知識や常識とは言いにくいいため、結論のラシイ文は話者の思い込みであると把握できる。この話者の「思い込み」は、4つの推論類型のうち、演繹推論(①—2)の意味構造を

<sup>23</sup> 本研究は、予備調査の段階で分析を進めており、コアデータの用例を4つの推論類型に合わせ、ラシイ文の傾向を検討している。すべての類型に当たる例は確認できるが、冒頭の(1)と(2)のラシイ文に当たる例を中心に紹介することにする。つまり、従来の用法である推定のラシイ(②—1・②／③—1／④—2)と、話者の主観性が見られるラシイ(①—2)、これらの論証になるのである。

取っていると見られる。つまり、(2)のようなラシイ文は、冒頭の(1)に比べ、客観的な意味がかなり薄れているのである。証拠性判断によって、客観性を表すと見なされてきたラシイであるが、(2)のようなラシイ文に対しては「例外的な主観性」を表すといえよう。

#### 4.2. 帰納推論 (②-1) : 規則の導出、(②-2) : 統計的一般化

帰納推論には、完全帰納推論と不完全帰納推論に区分できる(高木・荒川, 2022:80-85)。次の(3)は、帰納推論(②-1)に当たるものであり、発話現場で特殊な事例を認識してから行われる推論である。主に社会の知識や常識などが、暗黙の前提として含まれている場合が多い。これは、すべての事例を列挙することによって、一般知識を導くということから「完全帰納推論」とも呼ばれる。

(3) (中略) ゲレロ・ネグロ手前の分岐点にあるイミグレの検問所で止められた。ここから先は南バハ・カリフォルニア州となり、先に進むためにはビザ代わりのツアーリストカードが必要だと係官が言う。ティワナやエンセナーダで金を払えば発行してくれるらしいが、そんな規則を真木は知らなかった。(中略) 「ここはメキシコだ。メキシコにはメキシコのルールがある。必ず金必ず金を払えよ。あなたの顔は覚えているからな」 (BCCWJ : 2005, 『小説宝石』)

(3)	事 例	イミグレの検問所で止められた
	社会的 知 識	a. 国境検問所を通過して入国する際には、ビザが必要である
		b. ゲレロ・ネグロのイミグレの検問所では、ツアーリストカードが必要だ
		c. ティワナやエンセナーダで、ツアーリストカードの発行にはお金がかかる
	規 則	ゆえに、ティワナやエンセナーダで金を払えば発行してくれる

(3)の話者は、係官に言われた情報を基にし、ティワナの検問所ではツアーリストカードの発行のためにお金がかかるということが分かる。係官から得た情報は、特定の社会における知識であるため、そこからある規則や発見が導き出される。(3)は(2)とは違い、話者の主観性が積極的に介在している例であるとは言いにくい。

(4) ダグ : 「荷台で眠っているあなたの友だちも、アメリカに憧れて国境を越えたくちか?」

真木：「二十年くらい前に密入国して、カリフォルニアの果樹園で働いていたらしいです」

ダグ：「どうして、猫も杓子もアメリカに憧れるのかね」

真木：「アメリカが豊かだからですよ。仕事があるし、うまくやれば金もつくれる。目の前にアメリカみたいな国があれば、誰だって国境くらいは越えたいくなるでしょ」（中略）

ダグ：「あんたも、豊かなアメリカに憧れて国境を越えたくちか？」

真木：「ま、そうだったのかもしれませんが」（BCCWJ：2001, 『小説宝石』）

(4) 事 例	a. アメリカに憧れる真木は、密入国してアメリカで働いていた
	b. アメリカに憧れ、猫も杓子も密入国してアメリカで働く
結 論	ゆえに、真木の友だちもアメリカに憧れ、密入国しカリフォルニアで働いていた

続いて、(4)は帰納推論(②—2)に当たるものであり、限られた事例から結論として普遍的な法則を導出している。複数の事例を通して、統計的な一般化をなすこともできるが、(4)の話者(真木)は、(3)のように規則を導出するわけではなく、ある事柄の傾向を推定している。そのため、(4)は「不完全帰納推論」に該当する例である。ここでは、2つの事例(4'ab)が挙げられているが、「猫も杓子も」というダグの発話からも分かるように、真木の友達のみならず、密入国する人は数えられないほど多いという傾向が把握できる。(4)のラシイ文は、複数の事例の共通点に基づき推論が行われ、次節の類比推論とも似ているが、統計的な一般化を図っている点で、より高い客観性を帯びる例である。冒頭の(1)も、帰納推論②—2に該当し、(4)のような推論構造で理解できる。

#### 4.3. 類比推論(③—1)

類比推論は、ある要素が持っている性質や特徴を、他の要素も有するであろうという推論である(高木・荒川, 2022:86)。これは、対象間の共通点や相違点に着目して行われる推論類型であるが、本節では、類似性に基づいて成立する例を挙げる。

(5) 【IC01\_萌】 ふーん でもさ オ だ やっぱあれだよ バリスタさんとかのあれじゃない

【IC02\_郁】(中略) 簡単に入るってゆう (中略) スイッチ押したらぼわーって出てくるやつ (中略) あれ三千円ぐらいで売ってるやつを買おうとすぐ壊れるらしいよ (中略) バリスタの機械

【IC01\_萌】へー なんて 安い安すぎて

【IC02\_郁】詰まるんだって 粉がね (中略) 詰まりやすいんだって (中略) だからすごいまめに掃除スしてして まあ掃除しないといけないだろうけど

(CEJC : 2016, 飲食店で姉とお茶をしながら)

(5)

	コーヒーメーカーは、		バリスタの機械は、
P(a <sub>1</sub> )	生活家電である	—	Q(a <sub>1</sub> ) 業務用のマシンである
P(a <sub>2</sub> )	値段が安い	—	Q(a <sub>2</sub> ) 値段が高い
P(a <sub>3</sub> )	使い方が簡単である	—	Q(a <sub>3</sub> ) (文面では情報確認不可能)
P(a <sub>4</sub> )	粉が詰まりやすい	—	Q(a <sub>4</sub> ) (文面では情報確認不可能)
∴	ゆえに、三千円ぐらいの安いコーヒーメーカーは、すぐ壊れる		

(5) のラシイ文では、コーヒーメーカーとバリスタの機械を対象とし、それらの長所と短所を比べている。バリスタの機械に関する情報は、文面からは確認できないものの、Q(a<sub>1</sub>)と Q(a<sub>2</sub>)のくらいはある程度推論できる内容である。ところが、Q(a<sub>3</sub>)と Q(a<sub>4</sub>)までは文面から確認できず(4)の話者は対象間の共通した一部の特徴から結論を出している。(4)の推論過程において、命題間の論理的飛躍が見られており、話者の主観的判断が介在しているラシイ文であるといえる。

#### 4.4. 仮説推論 (④-1) : 結果推量

仮説推論は、複数の手がかりを引き付けることによって、話者の推論を正当化させる構造を取っている。仮説推論 (④-1 : 結果推量) と仮説推論 (④-2 : 原因推量) は、逆の方向性を見せている点で異なるが、両方とも話者の任意による結び付きによって、結論が導出される推論類型である。本節では、仮説推論 (④-1) の例を挙げることにする。

(6) 【IC01\_健】もう四月の一週 えー 四月のえーと 第一木曜日にしようかな と思って (中略)

【IC02\_園部】へー 木曜日ってゆうと わかばと重なるね (中略)

【IC01\_健】わかばと重なるんだよ (中略) で ってゆうのは ん えーちょっと水曜日があなのなんか えー どうしても水曜日にしか来れないって人がいて (中略) パーティーに

【IC02\_園部】 そう うん そうかもね

【IC01\_健】 でそれをその人のケアってゆうのがまず (中略) その人がだったらやめようかなってゆうらしいのね

【IC02\_園部】 あ そうなちやったら困るもんね 今までって何曜日だったんだっけ (中略)

【IC01\_健】 今まではその月初めの水曜日ってゆうの定着してたんだけど

(CEJC : 2017, テニスクラブで会員たちとイベント企画の相談)

(6)	事例	a. パーティーは、月初めの水曜日に定着している
		b. 四月の第一木曜日にパーティーをしようと思っている
		c. 水曜日にしか来られない人がいる
	結論	ゆえに、その人はパーティーが木曜日になったらやめようとしている

仮説推論(④—1)の場合、上記の演繹・帰納・類比推論に比べ、命題間の論理的な結束性が低い方である。(6)から分かるように、内容的に相反する命題が共存したり、もっともらしい複数の例が挙げられている。このような推論過程におけるラシイ文には、話者の主観性が介入されざるを得ない。

## 5. おわりに

- (1) 客観性の高い形式としてみなされてきたラシイ文にも、ダロウやハズダのように、話者の主観性を表す例が確認できた。それは演繹推論(①・2)の構造を取っており、大前提の命題が特殊な事例であるところに話者の主観性が関わっていると考察できる。
- (2) 帰納推論(②・1 : 規則の導出)と帰納推論(②・2 : 統計的一般化)におけるラシイ文は、従来「推定」の用法をよく反映している類型であり、証拠性判断からの客観性も帯びる。
- (3) 類比推論(③・1 共通点)に当たるラシイの場合、主観性を表すラシイといえるが、仮説推論(④・1)の例よりその主観性の度合いは高くない傾向が見られる。これは、仮説推論の論証そのものが、話者の任意で引き付けられた根拠から成立していることと、命題間の論理的整合性が低いことに起因するものであると考えられる。

(4) 上記の内容を連続性の観点から整理すると、現段階では次のような傾向が推察できる。

客観性←	演繹 (①-1)	帰納 (②-1)	帰納 (②-2)	類比 ③	仮説 ④	演繹 (①-2)	→主観性
------	-------------	-------------	-------------	---------	---------	-------------	------

### 【参考文献】

- 菊池康人(2000) 「「ようだ」と「らしい」－「そうだ」「だろう」との比較も」含めて－ 『国語学』 51(1), pp.46-60.
- 北原保雄(1981) 『日本語助動詞の研究』 大修館書店.
- 木下りか(2013) 『認識的モダリティと推論』 ひつじ書房.
- 金東郁(1992) 「モダリティという観点から見た「ようだ」と「らしい」の違い」 『日本語と日本文学』 17, pp.L21-L31.
- 金世利(2023) 「現代日本語におけるハズダ文の意味構造－推論類型と意味機能間の相関関係－」 『日本文化学報』 98, pp.267-284.
- 倉田剛(2022) 『論証の教室』 新曜社.
- 杉村泰(2009) 『現代日本語における蓋然性を表すモダリティ副詞の研究』 ひつじ書房.
- 高木敏行・荒川哲(2022) 『科学的論理思考のレッスン』 中央経済社.
- 中右実(1994) 『認知意味論の原理』 大修館書店.
- 中島孝幸(1990) 「不確かな判断－ラシイとヨウダー」 『三重大学日本語学文学』 1, pp.25-33.
- \_\_\_\_\_ (1992) 「不確かな伝達－ソウダとラシイ－」 『三重大学日本語学文学』 3, pp.15-24.
- 野林靖彦(1999) 「類義のモダリティ形式 「ヨウダ」「ラシイ」「ソウダ」：三水準にわたる重層的考察」 『國語學』, 197, 54-75.
- 三宅知宏(1994) 「認識的モダリティにおける実証的判断について」 『国語国文/京都大学文学部国語学国文学研究室(編)』 63(11), pp.20-34.

### 【用例出典】

『現代日本語書き言葉均衡コーパス (BCCWJ)』 (検索日：2023.09.10.)

中納言 2.7.2 データバージョン 2021.03.

『日本語日常会話コーパス (CEJC)』 (検索日：2023.09.10.)

中納言 2.7.2 データバージョン 2023.03.

(<https://chunagon.ninjal.ac.jp/>)

## 「いい」の名詞修飾用法と述語用法に関する一考察

林敬憲

政治大学日本語文学科大学院

### 1. はじめに

日本語の形容詞は、「名詞修飾用法」及び「述語用法」という二つの用法がある。例えば、寺村(1991)は、次の例が示されるように、(1)の述語用法は(2)のような名詞修飾用法と対応していると指摘している。

(1) ここの人々は貧しい。(寺村(1991: 258))

(2) 貧しい人々(寺村(1991: 258))

しかし、形容詞における名詞修飾用法、述語用法の対応関係が成立しないことがよく見られる。このような例として、「多い」、「遠い」といった形容詞があげられる。

(3) 人が多い。(木下(2004: 26))

(4) \*多い人が庭に集まっている。(仁田(1980: 236))

(5) 本屋は遠い。(木下(2004: 26))

(6) \*遠い本屋まで本を買いに行った。(仁田(1980: 239))

(4)、(6)はそれぞれ、(3)、(5)の述語用法に対応する名詞修飾用法であるが、どれも容認度が低いと指摘されている。仁田(1980)では、「多い」といった形容詞は、通常の装定(名詞修飾用法)化を許さない形容詞であると述べている。また、木下(2004)においても、「遠い」の名詞修飾用法は、その判断の際の比較対象が明示される必要があると指摘されている。このように、「多い」と「遠い」という形容詞は、その名詞修飾用法と述語用法が常に対応しているわけではないことがわかる。

「いい」の場合も、次の例が示されるように、名詞修飾用法と述語用法がある。

(7) いい天気だ。

(8) 天気がいい。

(9) いい部屋だ。

(10) 部屋がいい。

「いい」という形容詞も名詞修飾用法と述語用法が対応していない場合がある。例えば、(11)の名詞修飾用法「いい加減」は、その述語用法「加減がいい」と意味が対応していない。また、(12)(13)が示されるように、述語用法が成立するには、名詞の前に修飾表現が必要なものもある。

(11) いい加減 ⇒ #加減がいい。

(12) いい方法 ⇒ ?方法がいい。

(13) いい女 ⇒ ?女がいい。

形容詞の名詞修飾用法と述語用法の対応関係についての研究が様々にされてきたが、「多い」「少ない」という形容詞に集中しており、「いい」に絞る研究が見当たらない。

本稿は、形容詞「いい」を対象に、その名詞修飾用法と述語用法の対応関係を探る。

「現代日本語書き言葉均衡コーパス中納言 BCCWJ」(以下 BCCWJ) を利用し、「いい」を含む用例を抽出して、その名詞修飾用法と述語用法の用例を集計する。そのデータから「いい」の名詞修飾用法と述語用法の対応関係を探る。

## 2. 資料収集

名詞修飾用法と述語用法の対応の認定について、述語用法の前に修飾節が来るものは、その名詞修飾用法と対応する例と認めない。例えば、「いい+男」という名詞修飾用法に対する「男がいい」という述語用法の用例を検索すると、以下のような例はいくつか出る。

(14) あと女の子は自分より背の高い男がいいですか。

仁田(1980)が指摘したように、名詞修飾用法は修飾部が被修飾部のある属性や特徴を引き出す。「いい+男」の場合、「いい」によって「男」の属性や特徴が引き出されていることがわかる。そして、述語用法の「男がいい」は、主語「男」の属性や特徴が述べられている。しかし、以上の例では、「男」だけでなく、「背の高い男」とい

う句全体の属性や特徴が述べられるように見える。このような例は「いい+男」の名詞修飾用法と対応する例とは言えず、研究範囲内の用例でないと判断する。

以下の方法で BCCWJ から「いい」の用例を抽出し、その名詞修飾用法と述語用法の用例を計算する。

A. 「短単位検索」で共起検索を用い、「いい+名詞」の連鎖を抽出する。

【語彙素】が【良い】（前方共起 1）

【品詞】の【大分類】が【名詞】（キー）

B. ダウンロードしたファイルを Excel で処理し、ピボットテーブルを用いて「いい」の名詞修飾用法（「いい+名詞」）の頻度表を作る。

C. BCCWJ における「いい」の全用例を以下の用法で抽出する。

{ 【語彙素】が【良い】  
【品詞】の【大分類】が【名詞】（短単位の条件） }（キー）

D. 「いい+名詞」（例えば「いい加減」）の述語用法を C のファイルで確認し、述語用法の用例を出す。

表 1 は以上のような処理方法で行った結果をまとめたものである。「いい」+名詞（つまり、「いい」の名詞修飾用法）の用例数が高い上位 20 語を示す。

表 1 「いい」の名詞修飾用法と述語用法の出現率

名詞	名詞修飾用法	述語用法
①加減	1654 (99.94%)	1 (0.06%)
②人	1222 (97.37%)	33 (2.62%)
③方法	1056 (100%)	0 (0%)
④感じ	875 (89.37%)	104 (10.62%)
⑤子	822 (100%)	0 (0%)
⑥男	424 (98.83%)	5 (1.17%)
⑦女	372 (98.15%)	7 (1.85%)
⑧天気	330 (70.97%)	135 (29.03%)
⑨日	329 (99.7%)	1 (0.3%)
⑩年	309 (99.67%)	1 (0.32%)
⑪話	294 (99.32%)	2 (0.68%)

⑫仕事	293 (98.32%)	5 (1.68%)
⑬場所	282 (99.3%)	2 (0.7%)
⑭気持ち	280 (23.35%)	919 (76.65%)
⑮意味	272(100%)	0(0%)
⑯結果	269(97.11%)	8(2.89%)
⑰匂い	263(97.05%)	8(2.95%)
⑱気分	252(52.61%)	227(47.39%)
⑲奴	245(100%)	0(0%)
⑳香り	244(80.79%)	58(19.2%)

### 3. 考察

表1の名詞修飾用法と述語用法の割合に基づき、A、B、Cという三グループに分け、以下のように表2をまとめる。

表2 「いい+名詞」の出現率によるグループ分け

グループ分け	名詞	名詞修飾用法(%)	特徴
A (名詞修飾用法の出現率が比較的低い)	A1. 天気	71%	
	A2. 気分	53%	
B (名詞修飾用法の出現率が比較的高い)	B1. 人、感じ、男、女、日、話、仕事、場所、結果、匂い、香り	80~99%	
	B2. 方法、意味、奴	100%	形式名詞の性質を持つ
C (慣用的表現)	C1. 加減、年、子	99~100%	名詞修飾用法が多い
	C2. 気持ち	23%	述語用法が多い

Aグループについて、名詞修飾用法の出現率が比較的到低く、A1「天気」の出現率は71%で、A2「気分」の出現率は53%となっている。次の例を見る。

(1) ほら、今日は久しぶりのいい天気！洗濯物を外に！外に！！布団も干して！干して！！

(2) 天気がいいから、散歩しましょう。

(3) 気になることはすぐに処理して、それでいい気分でいられます。

(4) 細かい傷のチェックもできるし、何より洗車後は気分がよい。

(1) 「いい天気」と(2) 「天気がいい」が表しているのはどれも「晴れて風も穏やかなような日」「曇りが多くない日」「空がよく見える日」という意味であり、(3) 「いい気分」と(4) 「気分がいい」が表しているのはどれも「からだの生理的な状態に応じて起こる、快の心の状態」という意味である。

「いい」の表す意味は、名詞修飾用法と述語用法の間に、差があまり見られないと考えられる。

Bグループについて、B1は名詞修飾用法の出現率が高く、特定の条件のもとで述語用法が現れる。例えば、「いい人」の場合、その述語用法「人がいい」は次の例が示すように、二重主語文に現れる。

(5) 父は人は好いのだが短気で、かっと怒鳴りつけることがあった。

(6) 咲はとても人がいい。咲は頭が良くて、センスが良くて、運動神経がよくて、明るくて、とてもきれいな心をもっている。

また、「いい感じ」の場合、その述語用法「感じがいい」は「マナー・相手の態度・人との付き合いに好感を持つ」という意味で使われる。例えば、(7)の「感じがいい」は聞き方にマナーがあることに対して好感を持ち、(8)の「感じが良い」は保健室の先生の人との付き合い方に好感を持つという意味合いが感じられる。

(7) 話のポイントをしっかりとつかまえて聞くことができます。しかも聞き方にもマナーがあって、感じが好いのです。

(8) 着替えでお世話になる保健室の先生には、ついでの時でも、「先日はすみませんでした」と声を掛けておくと感じが良いと思いますよ。

B2 は、名詞修飾用法の出現率がすべて 100%である。形式名詞の性質を持っていると考えられる。形式名詞の性質について、藤田 (2018: 2) は次のように説明している。

(9) 名詞である。

(10) 実質的な意味を欠く。

(11) 必ず意味を補充する語句 (=連体修飾句) を承けて用いられる。

「形式名詞」は、名詞の中で、実質的な意味を欠いているためその意味を補充する語句が上にないと用いられないものである(藤田 2018: 2)。「方法」、「意味」、「奴」という名詞は以上の三つの規定に当てはまり、「形式名詞」の性質を有すると考えられる。

C グループは慣用句や慣用語の性質を持つものである。Goo 辞書<sup>24</sup>では「いい加減」、「いい子」、「いい年」は「連語」とされていることから、それらの表現は慣用語の性質を持っていることが分かる。

例えば、「いい年」は Goo 辞書では「相当の年輩。分別ある年頃。また、相当の高齢。」と解釈され、年に対してある種のマイナス評価的な意味が入っていることが分かる。つまり、合成語のように意味が特殊化してしまい、そのため、対応する述語用法が難しいのであると考えられる。

また、述語用法の出現率が高い「気持ちがいい」は、吉田(2005)が指摘しているように一語化したものである。吉田(2005)によると、「いい」は評価形容詞であり、「A がいい」などを言う場合、その「A」を評価しているが、一語化した句は形態素の原義を失っている。例えば「気持ちがいい」は一語化してしまい、決して「気持ち」を評価しているわけではない。このように、吉田 (2005) は「気持ちがいい」を一つの慣用語的な表現のように扱って

<sup>24</sup> Goo辞書: <https://dictionary.goo.ne.jp/>

いることが分かる。そのため、「気持ちがいい」は述語用法の出現率が高いのであると考えられる。

### 3. まとめ

本稿は BCCWJ から「いい」の用例を抽出し、その名詞修飾用法と述語用法を集計した。高頻度のものに絞って、データに基づいて名詞修飾用法と述語用法の対応関係を類型化した。今後はさらに多くのデータを取り入れ、考察を行う必要がある。

### 4. 参考文献（五十音順）

- 木下りか,2004,形容詞の装定用法をめぐる一考察—「多い」「遠い」の場合, 大手前大学人文科学部論集, ページ 25-35, 大手前大学人文科学部。
- 寺村秀夫,1991,日本語のシンタクスと意味, ページ 258-265,くろしお出版。
- 仁田義雄,1980,「多イ」「少ナイ」の装定用法 『語彙論的統語論』 ページ 233-250,東京明治書院。
- 藤田保幸,2018,「形式名詞」再考 | 佐久間「吸着語」の再検討を通して, 龍谷大學論集,ページ 1-37,龍谷学会。
- 吉田妙子,2005「有關日語「気持ち」和「気分」的意義特徵之分析」,創刊 20 號紀念號,291-314, 台灣日本語文學報。

# 日本語学習者の視点表現に関する定量的評価の試み

## —ストーリーライティングタスクを対象として—

名前:JIN JIN

所属:筑波大学大学院・人文社会科学研究群

国際日本研究学位プログラム・M2

### 1. 研究背景

多くの日本語学習者は「日本人のような日本語を話す」「自然な日本語を話す」ことを日本語学習の最終ゴールに設定している(金 2014)。これは、恐らく日本語学習者に限らず、母語以外の言語を学んでいる学習者に共通していることであろう。本研究では、多くの日本語学習者が上記のゴールを共通して持っていることを大前提として、議論を進める。

日本語学習者の多くが「日本人のような日本語を話す」ことを日本語学習の最終ゴールに設定しているものの、日本語学習者が日本語の勉強を長く続けたとしても、単なる文法や語彙の勉強で、学習者の日本語が自然な日本語にまでなるには困難なところがある(金 2014)。なぜなら、日本語の自然さには、多様な要素が複合的に影響しており、文法や語彙は勿論、発音やイントネーションなどが全て日本語として適切でなければならないからである。学習者の日本語が自然な日本語になるためには、文法や語彙、発音やイントネーションの他にも、「適切な表現」<sup>25</sup>を身に付ける必要がある。

「適切な表現」は状況・目的に合ったふさわしい表現を指す。「適切な表現」を使うためには「適切な表現力」を身に付けなければならない。「適切な表現力」は目標言語の母語話者なら共通して持つ能力であるのに対し、学習者には身に付きにくい能力である。「適切な表現力」とは(目標言語で書かれた)文が不自然」といった時に、目標言語の母語話者はその文がなぜ不自然かを「文法的」に説明はできなくても、「不自然である」という判断はでき、それに加えてより適切な表現がどのようなものかという識別もできる(安部 2001:40)メタ言語能力(秋田他 2019)とも呼ばれる能力のことである。つまり、適切な表現力を身に付けるためには、まず「(ある表現が)不自然か否か」を判断し、それから「適切な表現への修正の仕方」を習得することが重要である(安部 2001:41)。

<sup>25</sup> 本研究では便宜上文法や語彙、発音やイントネーションを除いた表現を適切な表現として捉える。

前述した通り、「適切な表現力」は目標言語の学習者には身に付きにくい能力である。目標言語の母語話者でない学習者自分では、最初の一步である「不自然か否か」の判断さえも困難であるため、学習者の代わりに目標言語の母語話者が「不自然か否か」を判断してくれなければならない。しかし、全ての項目を母語話者に評価してもらうことは効率が落ちるといった問題が想定される。そのため、判断の正確度は保ちつつ、学習者自分でも測定できるような方法が必要になる。

そうした中で、文法や語彙そして発音、イントネーションはいわゆる正解が存在し、定量的に評価することが可能である。その一方で、人の主観によって産出した作文や発話に表れる言語表現が適切な表現であるか否かを定量的な評価が難しく、評価するとしても評価者の主観による主観的評価を用いなければならない。しかし、主観的評価は評価者によって結果に影響が与えられない定量的な評価とは違って、評価者によって結果に影響が与えられるため、常に信頼性の問題が付きまとう(島田 2000)。そこで、本研究では定量的に評価することが難しいという問題を持つ人の主観による産出する言語表現が適切な表現であるか否かを定量的に評価するための方法を考案する。

「適切な表現」の中には日本語の自然さに関わる共感(empathy)がある。「共感」とは、「ある個体や出来事を中立的にでなく、それに参加するある人の側に立って、或いはその視点をとって表現すること」(大江 1979:1)である。中村(2019)では、日本語学習者は共感を示さない中立的な述べ方をする傾向が強いが、こうした述べ方は文法的に正しくても、日本語では不自然だとされる場合が多いと指摘されている。大塚(1995)によれば、日本語学習者の発話に、文法的に正しくても、どこか違和感を感じるのは、日本語学習者の発話に共感を表わす視点表現が欠けているからだという指摘がある。視点表現は、話し手が事柄を叙述する際に取りの視点を示す表現(大塚 1995)のことで、「視点」というのは話し手がある事柄をどこから描いているのかということである。

共感の定義からわかるように、共感話し手の視点の取り方によって判断される。視点の取り方は、事柄の捉え方によって、事柄をそのまま事実として表現する「事実志向型」と、話し手の立場から事柄を捉えて表現する「立場志向型」に区分できる(水谷 1985)という。そして、英語は「事実志向型」の傾向が強く、日本語は「立場志向型」の傾向が強いため、主人公に共感した場合においても、「てしまう」のような主人公に共感を示す視点表現を多用する日本語母語話者に比べて、英語母語話者では主

人公に共感を示さない能動文が圧倒的に多く使われる(佐藤 1997)という。こうした異なる言語間での共感を示す視点の取り方の違いは、日本語学習者と日本語母語話者の言語表現に大きく影響し、日本語学習者の日本語の自然さを損なうことになる。したがって、本研究では、共感を示す視点表現の使用を意識した発話をする事で、より自然な日本語に近づけられるのではないかと考える。

このように、日本語学習者が共感を示す視点表現を習得することの必要性が強調されているものの、日本語学習者の共感の度合いつまり共感度(久野 1978)が、日本語母語話者とどの程度類似しているかを定量的に評価できる方法は管見の限り見当たらない。本研究では、日本語学習者が共感を示す視点表現を習得する過程において、日本語学習者の発話が日本語母語話者にどの程度類似した共感度を持つかを評価することに大きな意義があると考えられる。そこで、本研究では、日本語母語話者の視点表現と比較して、日本語学習者の共感度を測定する評価方法を提案することを目的とする。本研究の目的を達成するために、以下の二つの RQ を明らかにする。

RQ①: 日本語学習者の視点表現は、一人当たりの視点表現の使用総数の観点から、日本語母語話者と比べてどのような違いが見られるか。

RQ②: 日本語学習者の視点表現は、視点表現の使用分布の観点から、日本語母語話者と比べてどのような違いが見られるか。

## 2. 研究方法

本研究で提案する評価方法は、任意の日本語学習者が産出した文章の中の視点表現の総使用回数と視点表現の使用分布の類似度を、日本語母語話者と比較することで、日本語学習者一人一人に当該文章の自然さ(日本語母語話者との類似度)を点数として与えることである。

具体的には、I-JAS コーパス(以下 I-JAS)で収録された SW(ストーリーライティング)タスク(1)「ピクニック」とタスク(2)「鍵」を主な分析データとする。分析データの属性としては、日本語母語話者(以下 JJJ)、韓国語母語話者(以下 KKD)、英語母語話者(以下 EUS・EAU<sup>26</sup>)に設定し、I-JAS にある JJJ 50 件、KKD 61 件、EUS・EAU

<sup>26</sup>I-JASでは、1つの地域で複数の調査地がある場合、言語の略称1文字 + 国名の略称や大学名の略称2文字でIDを作っている。EUS、EAUはI-JASが英語を話す地域の複数調査地の学習者につけたIDである。そのため、IDは違っていても母語は同じ英語である。

48 件のデータのサンプルを収集した。分析対象の選定は、これまでの先行研究で取り上げられた視点表現を踏まえた上で、本調査に入る前に予備調査を行い、それらの共通集合を分析対象として選定した。最終的には、移動動詞((て)来る・行く)、移動動詞(に)行く・来る、補助動詞の「てしまう」、受身表現、授受表現、受身表現と補助動詞の「てしまう」を結合した「受身+てしまう」の 6 種類を分析対象とする。

本研究で提案する評価方法における基準を作るために必要なデータは JJJ だけである。ここで、KKD と EUS・EAU グループのデータも分析する理由は、評価方法の妥当性を検証するためである。日本語学習者グループのデータと JJJ の類似度を比較し、KKD が相対的に類似度が高く、EUS・EAU が相対的に類似度が低い結果になるという仮説を検証するためである。先行研究によれば、EUS・EAU は日本語と正反対な視点表現を用いており、KKD は日本語母語話者に近い視点の取り方を持っていることから、KKD の点数が比較的が高く、EUS・EAU の点数が比較的に低いことが検証できれば、これまでの先行研究の裏付けとなるだけでなく、本研究で提案する評価方法の妥当性が証明されることになる。

本研究の研究手順は日本語学習者と 日本語母語話者の一人あたり視点表現の使用回数の類似度と視点表現の使用傾向分布の類似度をそれぞれ求めた上で、二つの類似度を総合的に用いて評価方法を作り上げる流れである。そして、日本語学習者のデータを用いて評価方法の妥当性を検証する。具体的には、以下二つの評価基準を設定し、最後に評価基準①と②を用いた総合的評価基準を作ることである。

- ・評価基準① :学習者と日本語母語話者の一人あたり視点表現の使用回数が一致するほど自然だと評価する。
- ・評価基準② :視点表現の使用分布がほぼ一致するほど自然だと評価する。
- ・総合的な評価基準 :評価基準①と②を用いて総合的に評価する。

### 3. 調査結果及び考察

上記の研究手順に沿って評価基準①(使用回数)と評価基準②(使用傾向の分布)、そして評価基準①と②を用いた総合的な評価点数の結果について述べる。

まず、使用回数の比較における詳細は表 1 と表 2 で示した通りである。タスク(1)では、JJJ(50 名)が 6 種類の視点表現を合計 150 回使用して最も多く、次に KKD(48 名)の 72 回、最後に EUS・EAU(61 名)が 67 回で最も少ないという結果になった。使

用した視点表現の内訳として、視点表現の 6 種類の中で JJJ がもっとも多く使用した視点表現は「(て)行く・来る」(51 回)で、次に多く使用した視点表現が「てしまう」(48 回)である。EUS・EAU がもっとも多く使用した視点表現は「(に)行く・来る」(32 回)で、次が「てしまう」(25 回)である。KKD は「てしまう」(33 回)をもっとも多く使用しており、その次に多く使用したのが「(に)行く・来る」であることが明らかになった。

表 1 母語別・視点表現種類別使用回数 タスク(1)

視点表現の種類 データの属性	てしま う	(て)行 く・来 る	(に)行 く・来 る	受身 表現	授受 表現	受身+ てしま う	視点表 現使用 総数	調査対 象者数
JJJ(日本語)	48	51	2	29	0	20	150	50 名
EUS・EAU(英語)	25	2	32	3	0	5	67	61 名
KKD(韓国語)	33	7	23	6	0	3	72	48 名

タスク(2)では、調査対象者数(50 名)は変わらず、JJJ の使用回数 153 回が最も多く、次に KKD67 回、最後が EUS・EAU40 回となり、タスク(1)と変わらない結果となった。使用した視点表現の内訳として、JJJ は「(て)行く・来る」(46 回)をもっとも多く使用しており、その次が「授受表現」(41 回)である。EUS・EAU は「(に)行く・来る」(16 回)をもっとも多く使用しており、その次が「てしまう」(12 回)である。KKD は「受身表現」(20 回)をもっとも多く使われ、次が「(に)行く・来る」(19 回)という結果になった。

表 2 母語別・視点表現の種類別使用回数 タスク(2)

視点表現の種類 データの属性	てしま う	(て)行 く・来 る	(に)行 く・来 る	受身 表現	授受 表現	受身+ てしま う	視点表 現使用 総数	調査対 象者数
JJJ(日本語)	21	46	5	23	41	17	153	50 名
EUS・EAU(英語)	12	3	16	4	4	1	40	61 名
KKD(韓国語)	6	3	19	20	13	6	67	48 名

どちらの結果も、先行研究で指摘したとおり、日本語母語話者が視点表現を最も多用しており、その次が(主観性が比較的強いと言われる)韓国語で、最後に日本語と正反対の視点の取り方を持つ英語であることが検証され、同時にこれまでの先行研究の裏付けにもなった。

次に、視点表現使用傾向の比較の詳細は図1とおりである。図1の左側で示したタスク(1)ではJJJが移動補助動詞「て行く・て来る」を最も多く使用しており、移動動詞の「に行く・来る」が最も使用していないことがわかる。しかし、学習者グループ(EUS・EAU、KKD)では、JJJがあまり使わなかった移動動詞「に行く・来る」の使用回数が最も多かった。学習者グループの中でも特にEUS・EAUでの多用が目立つ。図1の右側で示したタスク(2)でも、JJJは移動補助動詞の「て行く・来る」を最も多く使用しており、移動動詞の「に行く・来る」の使用が最も少ない。英語母語話者は「に行く・来る」を最も多く使用し、「受身+てしまう」の使用が最も少ない。一方で、韓国語母語話者は受身表現の多用が見られ、「て行く・来る」の使用が最も少なかった。また、学習者グループ(EUS・EAU、KKD)は受身表現を除いて全体的に似た使用分布を表しており、JJJの分布と比べれば異なる使用傾向が著しい。タスク(1)とタスク(2)の結果から分かるように、EUS・EAUとKKDの使用傾向は数値上一定の差異が存在するものの、とも同じ使用傾向を持っている一方で、JJJの使用傾向とは正反対の傾向を見せていることがわかった。

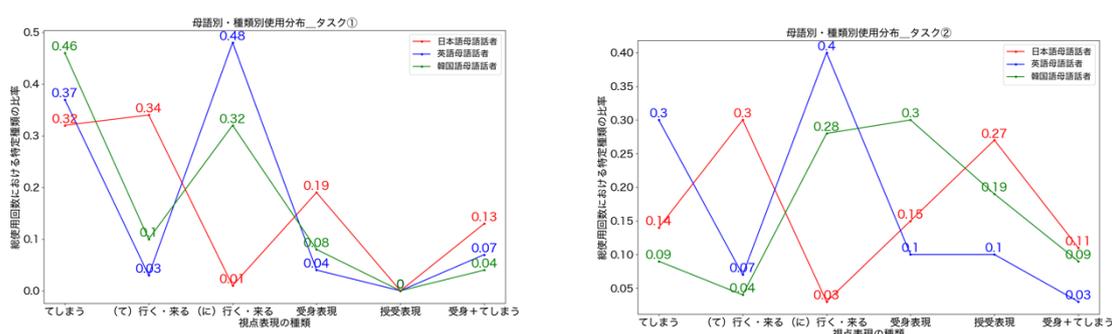


図1 母語話者別視点表現の種類の使用分布 (タスク(1)左、タスク(2)右)

最後に、評価基準①と評価基準②そして総合的な評価基準を数値における結果は表3と表4で示した通りである。まず、タスク(1)の評価基準①(視点表現の使用回数の評価)においては、EUS・EAUが0.37点、KKDは0.50点という結果になった。EUS・

EAU よりも値 1 に近い KKD の方が日本語母語話者に類似していると評価できる。次に、評価基準②(視点表現の使用分布の評価)では、EUS・EAU が 1.59 点、KKD が 0.94 点である。評価基準②においても 0 に近い KKD の方が比較的 に日本語母語話者に類似した視点表現を使っていることがわかった。最後の評価基準①と②を用いた総合的は評価基準では、EUS・EAU が 8 点、KKD が 19.5 点と言う結果になった。KKD は EUS・EAU より 2 倍ほど高い点数が得られているものの、満点の 100 点からすると、点数が高い KKD の方も日本語母語話者と類似した共感度を持つとは言い難い。

表 3 評価基準に基づいた日本語学習者の点数の結果 タスク(1)

データの属性 評価基準	EUS・EAU (英語母語話者)	KKD (韓国語母語話者)	備考
評価基準① (視点表現の使用回数 の評価)	0.37	0.50	値が 1 に近ければ近いほど、日本語母語話者に類似する
評価基準② (視点表現の使用分布 の評価)	1.59	0.94	値が 0 に近ければ近いほど、日本語母語話者に類似する
総合的な 評価基準	8	19. 5	値が 100(日本語母語話者の点数)を満点にした場合、点数が大きければ大きいほど日本語母語話者に類似する

次に、タスク(2)における評価基準①(視点表現の使用回数の評価)は、EUS・EAU が 0.21 点、KKD は 0.46 点という結果になった。EUS・EAU よりも値 1 に近い KKD の方が日本語母語話者に類似していると評価できる。次に、評価基準②(視点表現の使用分布の評価)では、EUS・EAU が 0.96 点、KKD が 0.61 点である。評価基準②においても 0 に近い KKD の方が比較的 に日本語母語話者に類似した視点表現を使っていることがわかった。最後の評価基準①と②を用いた総合的は評価基準では、EUS・EAU が 8 点、KKD が 25 点という結果になった。ここでも、KKD は EUS・EAU より 3 倍

ほど高い点数が得られているが、満点の 100 点からすると、点数が比較的に高い KKD の方も日本語母語話者と類似した共感度を持つとは言い難い。

表 4 評価基準に基づいた日本語学習者の点数の結果 タスク(2)

データの属性 評価基準	EUS・EAU (英語母語話者)	KKD (韓国語母語話者)	備考
評価基準① (視点表現の使用回数 の評価)	0.21	0.46	値が 1 に近ければ近い ほど、日本語母語話者に 類似する
評価基準② (視点表現の使用分 布の評価)	0.96	0.61	値が 0 に近ければ近い ほど、日本語母語話者に 類似する
総合的な 評価基準	8	25	値が 100(日本語母語話 者の点数)を満点にした 場合、点数が大きければ 大きいほど日本語母語 話者に類似する

以上、日本語学習者の視点表現使用回数と視点表現の使用分布を日本語母語話者と比較し、彼らに日本語母語話者との類似度を点数として表しただけでなく、どの結果も、先行研究で指摘した通りの傾向を示した。

#### 4. 結論

本研究では、これまで日本語学習者日本語学習者の発話が日本語母語話者にどの程度類似した共感度を持つかを評価する方法の提案を試みた。そして、実際のデータで相応する点数を求め、先行研究で指摘した傾向を検証し、評価方法の妥当性も検証した。本研究で設定した RQ に対する答えは以下の通りである。

RQ①: 日本語学習者の視点表現は、一人当たりの視点表現の使用総数の観点から、日本語母語話者と比べてどのような違いが見られるか。

→JJJ の視点表現使用回数が最も多く、次が KKD、最後に EUS・EAU が最も少ないという結果になった。

RQ②: 日本語学習者の視点表現は、視点表現の使用分布の観点から、日本語母語話者と比べてどのような違いが見られるか。

→EUS・EAU、KKDの使用傾向は数値上一定の差異が存在するものの、とも同じ使用傾向を持っており、JJJの使用傾向とは正反対の傾向を見せていることがわかった。

最後に、本研究で作成した数式や評価基準はI-JASのSWデータに基づいて使ったものであるため、日本語教育全般における活用は難しいと考えられる。そのため、I-JASのSWデータではない一般的な文章でも通用できる数式や評価基準が今後の課題であるとする。また、本研究で主張した評価方法には常に基準として日本語母語話者のデータが必要であるため、日本語教育現場で便宜に使える評価方法の考案も今後の課題としたい。

## 主要参考文献

秋田喜代美・斎藤兆史・藤江康彦 (編著)(2019) 『メタ言語能力を育てる文法授業英語科と国語科の連携』 ひつじ書房.

安部朋世(2001) 「授業『文法を考える』－『あいまいな文』と『文の不自然さ』の検討を中心に－」 『日本語と日本文学』 33, 39-52.

大江三郎(1979) 「『感情導入』に関わる日本語の特徴－英語との比較を含めて－」 『文学研究』 76, 1-21.

大塚純子(1995) 「中上級日本語学習者の視点表現の発達について－立場志向文を中心に－」 『言語文化と日本語教育』 9, 281-292.

金龍男(2014) 「『日本人のような自然な日本語』という虚像について」 『早稲田日本語教育実践研究』 2, 81-90.

久野暉(1978) 『談話の文法』 大修館書店.

佐藤史子(1997) 「英語を母語とする日本語学習者の談話分析－話し手の心理的視点と表現に関する考察－」 『言語科学研究:神田外語大学大学院紀要』 3,43-58.

島田めぐみ(2000) 『作文の評価における信頼性』 東京学芸大学紀要2部門 51.105-111.

中村かおり(2019) 「『日本語らしさ』に欠かせない視点表現の検証－中立視座タイプの談話における日本語母語話者とベトナム人・中国人日本語学習者の描写の比較から－」 『拓殖大学語学研究』 141, 67-88.

水谷信子(1985) 『日英比較話し言葉の文法』 くろしお出版.

## 日本語複合動詞の処理に及ぼす呈示モダリティと L2 語彙力の影響

宋啓超（広島大学大学院生）  
王怡凡（北京外国語大学大学院生）  
車鑫（北京外国語大学大学院生）  
王夢晗（北京外国語大学大学院生）

複合語は、L2 学習者の語彙習得の深さを検討する上で、重要な要素である。日本語の複合動詞は構造が複雑であり、構成語の意味と全体の意味が完全に一致していない場合が多い。よって、学習者にとって複合動詞の習得と処理は困難であると考えられる。今まで、L2 複合語の処理をめぐって、英語の複合名詞を中心に議論がなされてきた。一連の研究の結果から、複合語の処理は意味的透明性や L2 レベルなど多要因に制約されることが示唆されている。しかし、日本語複合動詞の処理についてはまだ未解明な点が多く、関連する研究は主に視覚呈示事態が採用されている点も検討の余地があると言える。中国人日本語学習者は L2 の日本語語彙を処理する際に、視覚呈示か聴覚呈示かによって、その処理過程が異なることが実証されている。そこで、複合動詞の処理に与える呈示モダリティの影響を探ることは重要であると言える。

これらをふまえ、本研究は中国人上級日本語学習者を対象に、日本語複合動詞の処理に及ぼす呈示モダリティと L2 語彙力の影響を実験的に検討する。具体的には、以下の 2 つの研究課題を設定する。

研究課題 1： 呈示モダリティは異なる種類の日本語複合動詞の処理にどのような影響を与えるか。

研究問題 2： L2 語彙力は異なる種類の日本語複合動詞の処理にどのような影響を与えるか。

実験の結果、次の 3 点が明らかとなった。1) L2 日本語の複合動詞の処理では、後項動詞に焦点を当てる中心語効果 (headedness effect) が存在し、この中心語効果は呈示モダリティと L2 語彙力に制約されること ; 2) 呈示モダリティは複合動詞の処理に影響を与え、視覚呈示事態では複合動詞の処理の仕方が複雑であり、分解的処理と全体的処理が同時に存在するが、聴覚呈示事態では処理の仕方が一致する傾向がみられ、分解的処理が優位であること ; 3) L2 語彙力は複合動詞の処理に影響を与え、語彙レベルが低い条件では複合動詞の処理の仕方が複雑であり、分解的処理と全体的処

理が同時に存在するが、語彙レベルが高い条件では処理の仕方が一致する傾向がみられ、分解的処理が優位であることの3点であった。

**キーワード**：日本語複合動詞；視聴覚処理；L2 語彙力；意味的透明性

## 教員による基調講演

### 第3会場

#### zoom 会場 3

zoom ID: 865-1922-7416 (PW739389)

#### 対面会場

日研楼 508

## 韓日関係を問う：金大中・小渕宣言、25年の歩みを評価する

徐承元（ソウ・スンウォン）

高麗大学教授

1998年10月8日、金大中大統領と小渕恵三総理は「韓日共同宣言：21世紀に向けた新たな韓日パートナーシップ」を発表した。金大中・小渕宣言は解放後／戦後韓日関係史において記念碑的な転換点として評価されている。本当の意味での和解プロセスの始まり、包括的な分野における協力の制度化、普遍的な価値の共有の下での地域平和・繁栄の推進などがそれである。ただ、不思議なことにパートナーシップの視点から韓日パートナーシップの25年間の歩みを検討した研究は殆ど見当たらない。ここでは5つの事例-歴史問題と1965年体制の動揺、対北朝鮮政策をめぐる不協和音、経済関係の水平化、米中戦略競争下の対応、社会・文化交流と相互不信-を中心に韓日パートナーシップの歩みを分析・評価してみたい。結論から言えば、韓日パートナーシップは未完の政治的企画であり続ける。

## 広島原爆の語り方——峠三吉と福原麟太郎

齋藤一

(筑波大学 准教授)

1945年8月6日、アメリカ軍が広島市に原子爆弾を投下し、甚大な被害が出たことはよく知られている。被爆者である詩人、峠三吉（とうげ・さんきち、1917-1953）が出版した『原爆詩集』は、この悲惨な出来事を扱った代表的な作品である。本発表では、英文学者・エッセイストであった福原麟太郎（ふくはら・りんたろう、1894-1981）の『原爆詩集』、特に収録作「朝」についての評価を検討することで、峠の作品の歴史的意義を明らかにするとともに、冷戦期における原爆文学の評価のあり方の一端を検証してみたい。

## 帝国の珍味から昭和ノスタルジア装置へ ー日本における「台湾バナナ」の消費文化史ー

政治大学日本語学科 助理教授

金想容(キン ソウヨウ)

日本統治時代における台湾バナナ産業の隆盛が、日本帝国の発展において重要な成果とされていた。また、「天皇の好物」、「お洒落な洋食」として登場し、文明開化や社会的階級に結び付けられていた台湾バナナは、戦前日本の帝国主義の「複層性」という特徴を反映していると考えられる。その後、太平洋戦争の勃発によりバナナ産業が衰退に向かっていたが、1960年代に第二回目の全盛期を迎え、戦後復興や高度経済成長期の象徴にまでされ、「イエロー・ダイヤモンド」とも称されていた。そこで本報告では、様々なテキスト分析を通し、日本の消費市場における台湾バナナの表象が如何に変化してきたか、またそれらのイメージがどのように集合的な記憶として構築されてきたかについて検討する。

## 日本語教育研究における作動記憶の応用可能性

費 暁東（北京外国語大学）

作動記憶（working memory）とは、情報の処理及び一時的処理の並行活動を支える動的な短期記憶システムである（Baddeley, 1986, 2000, 2003）。心理学や言語教育の領域ではよく扱われている重要概念の一つであり、人間の学習活動に深くかかわるシステムである。日本語教育の研究領域では、作動記憶が聞く・話す・読む・書く・訳すといった言語技能にどのようにかかわるかが検討されている（松見, 2006）。今までの研究は、主に学習者の作動記憶の容量をめぐって、容量の大小によって習得状況がどのように異なるかを検討してきた。今後の研究については、作動記憶の構造面と機能面をより深く検討するにあたって、3つの研究課題を提案する。(1)中央実行機能が日本語の習得に与える影響、(2)日本語習得が作動記憶に与える影響、(3)作動記憶の各構成システムを測定するテストバッテリーの開発、の3つの研究課題である。